

教育に関する事務の点検及び評価報告書

(平成 29 年度事業分)

平成 30 年 9 月

葛城市教育委員会

目 次

はじめに.....	1
1. 教育に関する事務の点検及び評価の実施方針について.....	2
2. 教育に関する事務の点検及び評価について.....	2
3. 教育委員会点検・評価に関する有識者の概要.....	4
4. 教育委員会の運営及び活動状況.....	5
5. 葛城市総合計画に基づく政策体系について.....	9
6. 教育委員会事業評価シート.....	1 1
7. 点検及び評価のまとめ.....	6 1

はじめに

教育委員会は、都道府県及び市町村等に置かれる合議制の執行機関であり、教育委員会が自ら立てた教育行政の基本方針に基づき、教育に係る広範かつ専門的な事務を確実に実施することが求められます。

平成２７年４月１日には「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の一部改正が行われ、教育の政治的中立性、継続性・安定性を確保しつつ、地方教育行政における責任の明確化、迅速な危機管理体制の構築、首長との連携強化が図られたところです。

この「教育に関する事務の点検及び評価」は、平成２０年度より毎年、事務の管理及び執行の状況について自己点検及び評価を行い、その結果を議会に提出するとともに公表しております。今年度は、平成２９年度事業評価にあたり、前年度評価の実施後、改めて評価対象や評価方法に係る議論を重ね、その上で担当課ごとに自己評価に取り組みました。６月には、「葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者」により、各事業実務担当者に対するヒアリングを実施し、各事業についてご意見をいただきました。

有識者のご意見を受けて再度担当課ごとに来年度以降の事業方針を決定し、最後に教育委員より評価の総評をいただきました。

この報告書は、以上の成果を「教育に関する事務の点検及び評価報告書」としてまとめたものです。

1. 教育に関する事務の点検及び評価の実施方針について

(1) 趣旨

葛城市教育委員会は、毎年、主要な施策や事務事業の取組状況について点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図る。

また、点検及び評価の結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表することにより、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進する。

(2) 実施方法

- 1) 葛城市教育委員会の主要施策を対象として点検及び評価を行う。
- 2) 点検及び評価は、前年度の施策・事業の進捗状況を総括するとともに、課題や今後の取組の方向を示すものとし、毎年1回実施する。
- 3) 施策・事業の進捗状況等を取りまとめ、有識者の意見を聴取した上で、教育委員会において点検及び評価を行う。
- 4) 教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るため、「葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者」を置く。
(「葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者」は、教育に関し学識経験を有する者の中から、教育委員会が委嘱する。)
- 5) 教育委員会において点検及び評価を行った後、その結果をとりまとめた報告書を市議会へ提出する。また、報告書は公表するものとする。

2. 教育に関する事務の点検及び評価について

(1) 評価の対象

評価の対象は前年度の施策・事業（今回は平成29年度事務執行分）とし、葛城市教育委員会所管の学校教育・社会教育それぞれの分野の施策に関して、評価を実施しました。

（２）今年度の点検及び評価の流れ

まず、主要事業ごとに教育委員会事務局自らがそれぞれの事業のコスト及び成果等について自己評価を行いました（教育委員会事業評価シート（計画）・（実施内容）・（評価）各欄）。その後、事務局評価の客観性を確保するため、作成した評価シート及び各課への有識者ヒアリングをもとに、有識者より様々なご意見をいただきました（教育委員会事業評価シート（有識者意見）欄）。事務局はそれらのご意見を受けて、来年度以降の事業方針を決定しました（教育委員会事業評価シート（方向性）各欄）。

最後に、これらすべてについて教育委員よりご意見をいただきました（点検及び評価のまとめ）。

（３）点検・評価の経緯

①平成２９年度 ３月定例教育委員会会議（平成３０年３月６日開催）

教育に関する事務の点検及び評価の公表・年度計画について協議決定するとともに、事務の点検及び評価を行う様式及び評価事業の決定を行いました。

②教育に関する事務の点検及び評価 有識者ヒアリング

（平成３０年６月６日・１１日開催）

事業評価について、各事務担当より意見聴取を行いました。

③平成３０年 ７月 教育委員からの意見の聴取

教育に関する事務の点検及び事業評価についての意見を聴取しました。

④平成３０年 ８月 教育委員の意見総括と最終決定

教育に関する事務の点検及び評価報告書を決定しました。

⑤「教育に関する事務の点検及び評価報告書」を葛城市議会議長に提出します。

（平成３０年９月提出予定）

(4) 各事業の方向性

平成29年度主要施策における来年度以降の方向性について、集計結果は以下のとおりです。

事業の方向性	件数
さらに重点化する	1件
現状のまま継続する	12件
見直しのうえ継続する	10件
事業の縮小を検討する	0件
休止、廃止を検討する	1件
終了・完了	0件

(主要施策ごとの評価は、P13～P60に掲載)

3. 教育委員会点検・評価に関する有識者の概要

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条に基づき、葛城市教育委員会が行った事務の管理及び執行の状況についての自己点検及び評価に対する意見をいただくため、葛城市教育委員会点検・評価に関する有識者を委嘱しました。

有識者は、次の方に委嘱しました。

岡野 晴充（元小学校校長、葛城市社会教育委員・公民館運営審議会委員）

川中 教正（當麻寺奥院 副住職）

(主要施策ごとの意見は、P13～P60に掲載)

4. 教育委員会の運営及び活動状況

(1) 教育委員会委員について

教育委員会委員は下表のとおりです。(平成30年9月1日 現在)

職 名	氏 名	備 考
教育長	杉澤 茂二	
教育長職務代理者	和田 治	
委 員	米田 知昭	
委 員	高木 希容子	
委 員	西川 吉昭	

(2) 教育委員会議及び審議状況について

平成29年度は合計で18回の委員会を開催し、審議事項16件、協議報告事項54件について審議・協議を行いました。内容は、下表のとおりです。

開催日	審議事項	協議報告事項
4月17日	なし	・教育委員会人事異動について ・スポーツ推進委員の委嘱について ・教育委員会後援名義の使用について ・平成29年度学校教育課程について
5月9日	なし	・教育委員会後援名義の使用について
5月29日	・教育に関する事務に係る議案の意見聴取について ・葛城市一般会計補正予算に対する意見聴取について	・教育委員会後援名義の使用について
6月14日	なし	・『葛城市立新庄小学校、磐城小学校及び當麻小学校空調設置工事に伴う、設計、施工業務』の経過報告について ・『葛城市立新庄北小学校、忍海小学校空調設置工事に伴う設計、施工業務』の経過報告について ・教育委員会後援名義の使用について

開催日	審議事項	協議報告事項
6月27日	なし	・教育委員会後援名義の使用について
7月12日	・社会教育委員・公民館運営審議会委員の委嘱について	・学校給食運営委員の委嘱について ・教育委員会評価意見提出について ・教育委員会後援名義の使用について
7月25日	なし	・平成 29 年度小学校教科用図書（道徳）選定委員の委嘱について ・文化会館協議会委員の委嘱について ・表彰審査委員会委員の委嘱について ・教育委員会後援名義の使用について ・教育委員会弔意内規について ・市町村教育委員研究協議会の開催について
8月22日	・平成 30 年度以降使用の小学校教科用図書（道徳）の採択について ・葛城市一般会計補正予算に対する意見聴取について	・葛城市一般会計補正予算の専決処分について ・葛城市学校給食特別会計補正予算の専決処分について ・教育委員会後援名義の使用について
9月6日	なし	・体力づくりセンター運営協議会委員の委嘱について ・教育委員会後援名義の使用について ・近畿市町村教育委員会研修大会について
9月24日	なし	・當麻寺二十五菩薩来迎会（練供養）調査委員会設置要綱の告示について ・トイレに関するアンケート調査について ・奈良県学力学習状況調査について ・全国学力・学習状況調査における児童質問紙について ・いじめに関するアンケート調査について ・葛城市幼稚園規則（案） ・J アラートの発表（午前 7 時現在）に係る対応について

開催日	審議事項	協議報告事項
10月30日	・教育に関する事務に係る議案の意見聴取について	・教育委員会後援名義の使用について ・奈良県市町村教育委員会研修大会の開催について ・葛城市立各学校・幼稚園保護者に宛てた配布プリントについて ・学校訪問について
11月13日	・学校医の委嘱について	・教育委員会後援名義の使用について ・葛城市学校給食負担金収入未済額について ・教育委員会作文審査について ・奈良県市町村教育委員会研修大会について
11月28日	・一般会計予算に対する意見聴取について ・社会教育委員・公民館運営審議会委員の委嘱について	・学校給食運営委員会委員の推薦について
12月5日	なし	・教育委員会後援名義の使用について
1月10日	なし	・学校給食運営委員の委嘱について ・教育委員会後援名義の使用について ・まちづくり推進大会小学生作文選考
2月22日	・葛城市教育長の任命につき同意を求めることについて ・葛城市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正することについて ・平成 29 年度葛城市一般会計補正予算に対する意見聴取について ・平成 29 年度葛城市学校給食特別会計補正予算に対する意見聴取について ・平成 30 年度葛城市一般会計予算に対する意見聴取について ・平成 30 年度葛城市学校給食特別会計予算に対する意見聴取について	・葛城市教育委員会後援名義の使用について ・葛城市立幼稚園規則について ・ストレスチェックの結果について ・奈良県市町村教育委員会連合会における輪番制について

開催日	審議事項	協議報告事項
3月6日	・ 学校薬剤師の委嘱について	・ 教育委員会後援名義の使用について ・ 平成30年度 教育委員会評価対象事業の選定について
3月28日	なし	・ 教育委員会後援名義の使用について ・ 葛城市学校教育施行規則の運用について ・ 葛城市いじめ防止基本方針について

(3) 教育委員会議以外の活動について

市内外の各種行事や研修等に参加しました。主な内容は、以下のとおりです。

- ・ 各幼稚園、小・中学校入学式（4月7日～11日）
- ・ 市町村教育委員会教育委員長・教育長会（5月31日）
- ・ 葛城市立学校新着任者研修会（8月22日）
- ・ 市民体育祭（9月24日）
- ・ 各幼稚園、小・中学校運動会（9月23日～10月4日）
- ・ 平成29年度近畿市町村教育委員会研修大会（10月24日）
- ・ 平成29年度奈良県市町村教育委員会研修大会（11月17日）
- ・ 各小・中学校訪問（11月13日～12月5日）
- ・ 各幼稚園訪問（1月31日、2月2日）
- ・ 葛城市駅伝・マラソン大会（1月7日）
- ・ 成人式（1月8日）
- ・ 教育委員会人事具申ヒアリング（1月19日、24日）
- ・ 生涯学習まちづくり推進大会（2月18日）
- ・ 孝女伊麻頭彰法要（2月27日）
- ・ 各幼稚園、小・中学校卒業式（3月15日～19日）

5. 葛城市総合計画に基づく政策体系について
葛城市総合計画については以下のとおりです。

都市像	政策の柱	
歴史を重ね、未来を育む 時代を超えて 愛される住みよい共存の都市 葛城	調和・共助 ～多種多様な価値観が共存するまち～	
	壮健・学習 ～心と身体が健やかに育まれるまち～	
	活力・安全 ～にぎわいあふれる安心なまち～	

政策目標	施策目標
市民みんなが活躍できる社会の構築	高齢者や障がい者が生きがいをもって暮らせるようにする 女性が積極的に社会進出できる社会を形成する
豊かな自然の保全・継承	循環型社会を形成し、ごみの減量化を進める 森林や河川等の自然環境の維持・景観形成に努める
歴史・文化と調和的な地域づくり	歴史や文化の保護・活用を図る 時代の変化を踏まえた地域づくりを進める
誰もが生涯健康で過ごせるまちづくり	未病・予防と重症化防止の取組を通じた健康寿命の延伸 安心して医療・介護サービスが受けられる体制づくり 運動の場の形成を通じた市民の健康の増進
教育・学習による未来の市民づくり	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う 基礎学力の向上や社会を生き抜く力の養成を進める
生涯学習による豊かな心の涵養	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する 人権教育により差別のない社会を形成する
住みよいまちを支える社会基盤の実現	基幹道路や駅前道路、地域交通ネットワークの整備を進める 管路の整備・補修を進めて安定的な上下水道の利用を確保する
産業振興による地域の稼ぐ力の向上	農商工業の地場産業を育成し、活性化させる 観光業の振興によるまちの賑わい創出
安心・安全な生活環境の整備	自然災害や火災等に対する備えを十分なものにする 地域の防災体制を強化し、犯罪の発生を抑止する

※網掛け部は今回の教育委員会評価対象事業において目標とされている施策です。

6. 教育委員会事業評価シート

【平成２９年度主要事業に対する教育委員会評価シート】

事業 No. 1	市内小学校空調設備設置工事	1 3
事業 No. 2	小・中・幼各所改修工事	1 5
事業 No. 3	小学生スポーツ教室委託事業	1 7
事業 No. 4	学校給食事業	1 9
事業 No. 5	葛城歌壇短歌大会	2 1
事業 No. 6	読書活動支援・講座	2 3
事業 No. 7	ブックスタート事業	2 5
事業 No. 8	成人式式典事業	2 7
事業 No. 9	生涯学習人材バンク事業	2 9
事業 No. 10	青少年健全育成事業	3 1
事業 No. 11	学校・地域パートナーシップ事業	3 3
事業 No. 12	生涯学習まちづくり推進大会	3 5
事業 No. 13	葛城アートフェア事業	3 7
事業 No. 14	公園まつり実行委員会業務	3 9
事業 No. 15	地区館教室・講座事業	4 1
事業 No. 16	中央公民館 當麻文化会館 教室・講座事業	4 3
事業 No. 17	文化振興事業	4 5
事業 No. 18	展示（常設展・特別展等）事業	4 7
事業 No. 19	歴史講座開催事業	4 9
事業 No. 20	埋蔵文化財等調査事業	5 1
事業 No. 21	各種教室開催事業	5 3
事業 No. 22	各種スポーツ大会等開催事業	5 5
事業 No. 23	体育施設の管理運営事業	5 7
事業 No. 24	総合型地域スポーツクラブ事業	5 9

教育委員会事業評価シート

		事業No.	1
事務事業名	市内小学校空調設備設置工事	担当課名	教育総務課
係 名	施設係	施 設 名	市内各小学校

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり			
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う			
事業の目的	昨今の気温上昇による子どもの健康管理上および快適な教育環境のもとでの学習のため。				
事業の内容	平成29年度は、市内5校の小学校の空調機器未設置の普通教室及び特別教室に空調機器の設置を行った。 設置数について、新庄小学校は33室、忍海小学校は18室、新庄北小学校は14室、磐城小学校は35室、當麻小学校は20室に空調機器を設置した。 なお、平成30年度は、忍海幼稚園及び當麻幼稚園の空調未設置の保育室に空調機器を設置する予定。				
事業対象	各小学校				
事業年度	口	区分指定無	■	平成28年度	～平成30年度間

(実施内容) ※H28年度は中学校の実績、H30年度は幼稚園予定分です。

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成28年度決算	平成29年度決算	平成30年度予算
		事業費 ①		183,708	360,925	19,322
		内一般財源		146,214	288,660	13,389
		内国・県補助金		37,494	72,265	5,933
		内受益者負担		0	0	
		人件費 ②		6,219	6,284	5,230
		総コスト①+②		189,927	367,209	24,552
実績と 成 果	区 分		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度(目標)
	事業 実績	施工	円	183,708,000	340,511,040	19,322,000
		設計	円	0	20,414,160	0
				(↑教育総務課で設計)		(↑教育総務課で設計)
	事業 成果	空調設置教室数				
		小学校	室		120	
		中学校	室	68		
		幼稚園	室			8

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☒ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
評価の説明	A A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
事業の課題・問題点	各学校に配布の使用指針を基準とした使用を勧める一方で、校舎の位置による日照等各条件による臨機応変な使用も伝えながら、児童生徒の健康面を第一とした使用を毎年度当初に、学校管理職へ伝えていかなければならない。 また、学習面及び健康面において、今後いかにその結果が反映されるかが、空調設置事業の今後の大切な評価になるものである。 学習・健康面において結果が反映されているかどうかについては、今後注視していく必要がある。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	空調機器設置事業とともに耐震対策事業についても進めるべきとの評価をいただいたことについて、耐震対策事業については園児の生命にかかわることであるため、園児の健康面の維持を目的とした空調機器設置事業と同時に計画を進め、早急な耐震化対策をめざす。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	本年度は小学校、来年度からは幼稚園と計画的に実施されることによって、すべての子供たちが快適な教育環境の下で教育を受けられるようになることは、学習の効率が上がり、学力向上につながっていくものと考えられる。また、運用指針も作り適切な運用がなされ充分評価できるが、現場における臨機応変な運用も必要である。 平成30年度実施の2幼稚園を残し、市内すべての教育施設に空調が整ったことになる。特に夏期の集中力低下防止・熱中症対策・食細りへの効果が高いと考えられる。一方、学力面・健康面での成果を短期間で集計することは難しく、今後長期的に何かしらの成果検証方法を考えなければいけない。また、教育環境が整った葛城市をもっと内外にアピールすべきである。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	運用については、引き続き運用方針の内容について各学校に理解を求め、合わせて指導を行うと同時に、教師が児童・生徒の体感をできるだけ感じ取るようにし、臨機応変な運用もすすめていくようにする。 また、空調設備設置により、学習面や健康面での効果や変化を調査していくことにより、目標としていた快適な教育環境の維持につながられているかを検証していきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	2
事務事業名	小・中・幼各所改修工事	担当課名	教育総務課
係 名	施設係	施 設 名	各幼稚園・小・中学校

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～				
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり				
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う				
事業の目的	教育施設の危険箇所・老朽箇所を改修し、児童・生徒の安全を確保するとともに、快適な教育環境の提供を行う。					
事業の内容	より良い教育環境を築くため、小・中・幼の建物・設備の中規模程度の改修工事を実施した。 小学校では、新庄小学校で男女職員トイレ改修等、忍海小学校で屋外トイレ改修、新庄北小学校でパソコン室カーテン取付等、磐城小学校で配膳室改修、當麻小学校で廊下窓手摺り取付工事を行い、中学校では、新庄中学校で渡り廊下漏水補修、白鳳中学校でプール日除け庇屋根改修工事を行い、幼稚園では、新庄幼稚園で年少トイレ改修等、新庄北幼稚園で通用門塗装改修を行った。					
事業対象	各幼稚園、小中学校					
事業年度	口	区分指定無		■	平成 29年度	～ 平成 29年度 間

(実施内容) ※H28は新庄北幼稚園増築工事の決算

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成 2 8 年度決算	平成 2 9 年度決算	平成 3 0 年度予算
		事業費 ①		56, 304	13, 068	6, 870
		内一般財源 内国・県補助金		51, 576	13, 068	6, 870
				4, 727	0	0
		内受益者負担		0	0	0
		人件費 ②		6, 219	9, 273	7, 472
		総コスト①＋②		62, 523	22, 341	14, 342
実績と 成 果	区 分		単位	平成 2 8 年度実績	平成 2 9 年度実績	平成 3 0 年度(目標)
	事業 実績	新庄北幼増築	円	45, 633, 780		
		各所工事	円	10, 670, 000	13, 068, 000	6, 870, 000
	事業 成果	教室増数	室	1	0	0
		各所工事箇所		新庄小学校/屋外便所改修工事他 磐城小学校/渡り廊下床補修工事他 新庄中学校/砂場改修工事 新庄幼稚園/保育室改修工事	新庄小学校/男女職員トイレ改修他 忍海小学校/屋外トイレ改修 新庄北小学校/パソコン室カーテン取付他 磐城小学校/配膳室改修 當麻小学校/廊下窓手摺り取付工事 新庄中学校/渡り廊下漏水補修 白鳳中学校/プール日除け庇屋根改修工事 新庄幼稚園/年少トイレ改修他 新庄北幼稚園/通用門塗装改修	忍海小学校/プール棟及び校務員室屋根塗装工事 新庄北小学校/プール塗装工事 磐城小学校/職員室ホワイトボードシート張付け工事 當麻小学校/家庭科室照明器具LED更新工事他 新庄中学校/プールサイド床シート張替工事他 白鳳中学校/2階東側渡り廊下改修工事 新庄幼稚園/遊戯室棟雨水侵入対策工事

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☒ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	A A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	各学校からの要望について、児童・生徒の衛生面、安全面、利便性の向上等を検討し、緊急性の高いものや本事業で施工することにより建物全体の長期寿命化にもつながることができた。			
事業の課題・問題点	各学校とも建築より相当年数が経っており、学校側が要望する修繕箇所も年々増えているが、予算上全てに対応できない。子どもの命を第一に考え、緊急を要する箇所から行うとし、安全で安心できる学校施設の環境づくりを進める必要がある。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	各学校からの要望箇所を把握、確認しできる限り早期に改修、対応することで建物の寿命を延ばすようにする。また住宅開発の動向及び人口動態の動向に注意し、各学校の教室数などに影響が出ないように努める。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	子供たちが毎日活動する幼稚園・小学校・中学校は、安全でなくてはならない。そのためにも、施設点検を定期的に行う必要があり、危険箇所等は修繕・改修し、計画的にすべての教育施設の環境整備に取り組んでいただきたい。 教育施設からの要望のうち6割程に対して答えられているということで、修理の可否を適切に判断していただいていると思われる。施設の老朽化が進む中、人口動態に合わせて今後も適切な処置を執り続けていかなければならない。また、今回の大阪北部震災の教訓を受けて、施設の隅々にまで違法性が無いか総点検をする必要がある。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	各所工事においては、普段から学校による点検を実施することの指導を行い、児童・生徒の生命に関わる事象を最優先とするなど常に安全を一番に考えた改修を実施し、工法についての工夫や、出来る部分は学校でしてもらう等、コスト削減につなげていきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	3
事務事業名	小学生スポーツ教室委託事業	担当課名	学校教育課
係 名	学習指導係	施 設 名	小学校

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり			
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う			
事業の目的	市内全小学校の5年生を対象に、日本サッカー協会頼アスリートの派遣を仰ぎ「夢をもつこと」「協力すること」の大切さをゲーム及び講話を通じて指導いただく。				
事業の内容	小学生スポーツ教室委託事業とは、日本サッカー協会がサッカー協会がサッカー界だけでなく他のスポーツや他ジャンルの人々が一丸となって子ども達の心身の健全な発達に貢献していくプロジェクトであり、「DREAM 夢があるから強くなる」というスローガンを掲げて夢をテーマにしている取り組みである。 平成29年度は新庄小学校は中西永輔、大島めぐみ氏を講師として、磐城小学校は永田克彦、田中聖美氏、忍海小学校は櫛田亮介氏、新庄北小学校は、中川聴乃氏、富麻小学校は奈良安剛氏を招き、各小学校5年生を対象に実施した。				
事業対象	市内の小学5年生				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成28年度決算	平成29年度決算	平成30年度予算
		事業費 ①		1,305	1,670	1,650
		内一般財源		1,305	1,670	1,650
		内国・県補助金		0		
		内受益者負担		0		
		人件費 ②				
		総コスト①+②		1,305	1,670	1,650
実績と 成 果	区 分		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度(目標)
	事業 実績	対象人数	人	348	415	405
	事業 成果	授業を受けてよかった	%	98.53		
		授業を理解できた	%	83.19		
		自分の夢を考えるようになった	%	71.69		

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	○政策目標に合致しており、その達成に向けて貢献している。 ○業務委託で実施しており、事務の効率化が図られている。			
事業の課題・問題点	公益財団法人日本サッカー協会の事業として実施されているもので、講師「夢先生」の日程の都合であるので致し方ないが、市内の同一小学校でクラスによって講師が違う場合がある。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	費用削減のため、5校でできるだけ続けて実施できるように実施日程を計画している。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	スポーツの専門家の体験に基づいた実技や講和を聞くことは、児童にとって有意義であり生涯学習につながっていくものである。本年度はアンケートを実施できなかったとのことであるが、今後、事業が終わった後のアンケートは実施し、子どもたちのニーズを的確に把握していただきたい。 トップアスリートから直接プログラムを受けることができ、葛城市の小学生は恵まれていると感じる。限られた市町村でしかプログラムを実施できない条件で、葛城市は近隣市町村に比べ秀でている。先の空調設備の充実とともに、今後の少子高齢化人口減少社会の中で、若い世代の人口流入へつながる事業である。葛城市として内外にアピールすべきである。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	・事業終了後の子どもたちへのアンケートを毎年実施する。 ・市内外へアピールできるよう市の広報誌やホームページに掲載するとともに、メディア関係へのプレスリリースを行い、取り上げてもらえるよう積極的にアピールを行う。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	4
事務事業名	学校給食事業	担当課名	学校給食センター
係 名	学校給食センター	施 設 名	学校給食センター

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり			
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う			
事業の目的	園児・児童・生徒の心身の健全な発達のため、安全で栄養バランスのとれた給食を提供するとともに、食に関する正しい理解と判断力を養い学校での食育に資することを目的とする。				
事業の内容	葛城市の給食事業は、給食センターから幼稚園5園・小学校5校・中学校2校で、給食数1日約4,200食を調理・配送・回収・洗浄する学校給食事業を実施している。 安全・安心で栄養バランスのとれた給食を提供するために、献立の作成や食材の選定を行い、学校給食衛生管理基準に基づき、給食センターはもとより学校給食関係者の衛生管理の意識の徹底を図っている。また、設備機器等の保守点検業務も統一して行っている。 食育の取り組みでは、地産地消を推進して地元野菜への理解を深め、毎月の「給食だより」に旬の野菜等の説明を入れて食への関心を高めている。また、食物アレルギーにも対応した給食を提供している。				
事業対象	幼稚園・小学校・中学校の園児・児童・生徒				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成２８年度決算	平成２９年度決算	平成３０年度予算
		事業費 ①		322, 954	334, 381	344, 061
		内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担		148, 495	159, 210	160, 157
				174, 459	175, 171	183, 904
		人件費 ②		17, 418	18, 419	15, 839
		総コスト①＋②		340, 372	352, 800	359, 900
実績と 成 果	区 分		単位	平成２８年度実績	平成２９年度実績	平成３０年度(目標)
	事業 実績	給食材料費	千円	189, 095	187, 084	202, 955
		内市費	千円	14, 636	11, 913	19, 051
		内保護者負担金	千円	174, 459	175, 171	183, 904
	事業 成果	給食人数	人	4, 124	4, 205	4, 354
		給食数	食	702, 468	721, 137	740, 000

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)							
	☒	増加	☐	横ばい	☐	減少	☐	かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)							
	☒	十分貢献している	☐	概ね貢献している	☐	あまり貢献していない	☐	貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)							
	☐	十分できている	☒	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)							
☐	十分できている	☒	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない	
総合評価	B		A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要					
評価の説明	平成26年の消費税の増税分の値上げ以降は給食費の値上げを行っておらず、市からの助成金により運営を行っている。メニューの工夫・食材のやりくりについての努力を重ねて、安心・安全な給食の提供に努めている。地場産物としては、米は奈良県産のヒノヒカリを使用し、食材はねぎや季節野菜を市内産でまかなっている。また、季節の食材として柿・苺や酒粕なども使用している。今後も食育の一環として、地場産物や季節食材への理解を深めて積極的に取り入れ、食への関心を高めていきたい。							
事業の課題・問題点	・異物混入対策 ・アレルギー対応 ・地産地消に関する取り組み							

評価を受けての改善点(過去3年間)	アレルギー対応については、平成27年9月より新給食センターにおいて、乳・卵・エビ・カニの4品目のアレルギー食品についての対応食を実施し、調理配送の外部委託にて安心・安全な給食の提供を図っている。地産地消については、関係機関との連携を強化して、安定的な供給につながるような組織づくりを図っていく。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	食の安全・アレルギー対応及び食育の取り組みを行い、地産地消についても関係機関と連携して安定した供給に取り組んでおり、評価できる。また、業者委託しているごはん・パンの安全対策についても定期的に点検を実施し、安全・安心で栄養のバランスのとれた美味しい給食の提供に取り組んでください。 子どもたちの学校教育を支える給食なので、これからも事故の無いように安定した供給を心がけていただきたい。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐	さらに重点化する	☐	事業の縮小を検討する
	☐	現状のまま継続する	☐	休止、廃止を検討する
	☒	見直しのうえ継続する	☐	終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	食の安全・アレルギー対応及び食育に積極的に取り組むとともに、委託業者への定期的な点検を実施し、安全・安心で栄養バランスのとれた美味しい給食に取り組み、安定した給食の供給に努めていきます。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	5
事務事業名	葛城歌壇短歌大会	担当課名	図書館
係 名	新庄図書館・當麻図書館	施 設 名	葛城市立図書館

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	葛城市ゆかりの万葉歌人・柿本人麻呂と、葛城市出身で日本芸術院会員・前川佐美雄の二人の偉大な歌人を顕彰し、短歌のふるさと“葛城”を目指すとともに、日本文化の継承と言語文化の創造を通して、生涯学習の拠点づくりに資する。				
事業の内容	今年度は、出詠者数1,824名、応募作品数2,102首で、11月26日(日)葛城市歴史博物館あかねホールにおいて、表彰式と選者による出詠作品の講評を行った。				
事業対象	小学生から大人までの市民をはじめ、すべての人々。				
事業年度	■	区分指定無	□	平成	～平成間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	平成２８年度決算	平成２９年度決算	平成３０年度予算
			事業費 ①	1,429	1,335	1,374
			内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担	1,250	1,153	1,194
				179	182	180
			人件費 ②	2,363	2,646	2,600
			総コスト①＋②	3,792	3,981	3,974
実績と 成 果	区 分		単位	平成２８年度実績	平成２９年度実績	平成３０年度(目標)
	事業 実績	選者講師謝金	千円	280	280	280
		印刷製本・送料	千円	940	961	983
		短歌講座講師	千円	20	20	20
		各種奨励費	千円	126	74	91
	事業 成果	応募者数	人	1,552	1,824	1,850
		応募作品数	首	2,774	2,102	2,154
		大会参加者数	人	75	78	100
		短歌講座参加者	人	32	16	25

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)							
	☒	増加	☐	横ばい	☐	減少	☐	かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)							
	☐	十分貢献している	☒	概ね貢献している	☐	あまり貢献していない	☐	貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)							
	☐	十分できている	☒	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない
	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)							
☐	十分できている	☒	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない	
総合評価	A		A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要					
評価の説明	平成29年度から学生の出詠を「一人2首以内」から「一人1首」に変更した。その結果、小学生の部の参加者は昨年に比べ291名増加した。これは小学生が「2首作るのは難しいけれど、1首なら作ることができる」と挑戦してもらえたことが参加者の増加になったと考えられる。また、出詠者数が増加したことにより作品集の印刷部数は前年度より300部増えたが、短歌数が減少したため作品集の項が減り印刷費が抑えられた。							
事業の課題・問題点	短歌の愛好者は年齢の高い世代が多く、若い世代の出詠が少ないのが現状である。若い世代が短歌への関心を高め、葛城歌壇の出詠者の増加につながるような事業やPRが必要である。							

評価を受けての改善点(過去3年間)	これまで実施してきたPRは今後も継続して行い、市民に葛城歌壇の周知を図りたい。 また、伝統文化である短歌に親しみをもってもらえるように、短歌に関係する図書の種類を増やし、葛城歌壇の募集期間中には短歌講座を開いたり、短歌の作り方の解説本等を館内に展示し、市民の関心が高まるように取り組んだ。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	多くの市民に葛城歌壇に関心をもってもらえるよう短歌に関する図書の種類を増やしたり短歌講座を開催するなどの取り組みが行われ、一定の成果が現れてきている。しかし、年齢層が高いので、これまで以上に若年層や小・中学生に対しての取り組みが期待される。 市内小学生の出品数が増加していることや、施設での受賞作品の展示等に工夫が見られ、短歌に触れる人数が着実に増加していることを評価したい。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐	さらに重点化する	☐	事業の縮小を検討する
	☒	現状のまま継続する	☐	休止、廃止を検討する
	☐	見直しのうえ継続する	☐	終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等)	出詠者数が微増しているものの、頭打ちの状態が暫く続くと思われるため、葛城歌壇のあり方を見直し改変を図る時期が来ていると感じる。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	6
事務事業名	読書活動支援・講座	担当課名	図書館
係 名	新庄図書館・當麻図書館	施 設 名	葛城市立図書館

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養		
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する		
事業の目的	市民に図書館を身近に感じていただき、図書館利用を促進する。 また、読書活動の推進や知識を身につけるため、おはなし会などボランティア団体に対しての支援を行う。			
事業の内容	葛城市民が自らの生き方を豊かなものにするため、生涯を通じて学ぶ機会となる様々な講座を開催し、市民の知識の習得と向上を目指している。今年度は「風蘭忌－歌人前川佐美雄と詩人伊東静雄－」「絵本講座－みんなで楽しむ絵本のひろば－」と「文学講座－姉大伯皇女と弟大津皇子が残した歌－」を開催した。 また、図書館で行う「おはなし会」、保育所・幼稚園・小中学校へ出向いて行う「おはなし配達」、職員が読み聞かせをする「こんにちは絵本」、1歳前後の親子を対象にした「あかちゃんといっしょに」にも力を注ぎ、読書活動の支援を行っている。			
事業対象	市民（大人・子ども）、おはなしボランティア、学校・幼稚園・保育所の先生等			
事業年度	■	区分指定無	□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分	平成２８年度決算	平成２９年度決算	平成３０年度予算	
		事業費 ①	40	20	40	
		内一般財源	40	20	40	
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②	1,717	1,472	1,600	
		総コスト①＋②	1,757	1,492	1,640	
実績と 成 果	区 分		単位	平成２８年度実績	平成２９年度実績	平成３０年度(目標)
	事業 実績	子ども向け講座	千円	20	20	20
		文学講座	千円	20	0	20
	事業 成果	子ども向け講座	人	848	1,236	1,150
		文学講座	人	502	50	130

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	A A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	平成29年度の文学講座は葛城市にゆかりのある人物を取り上げ、7月に「歌人前川佐美雄」、12月に「大伯皇女と大津皇子」をテーマに講座を開いた。特に「大伯皇女と大津皇子」は、万葉集と併せて古代史についても講義が行われたため、「地元の歴史が知りたい」という市民の参加が多く見られた。 また、「絵本講座ーみんなで楽しむ絵本のひろばー」では、300冊を超える絵本を部屋いっぱいに面出し、その中で講師が絵本の読み聞かせや絵本の面白いポイントについて解説する講座で、乳幼児から大人まで年齢に関係なく参加があり、絵本の魅力を参加者全員で共感することができる内容であった。 さらに、毎月恒例の「おはなし会」や「こんにちは絵本」、年2回実施する「あかちゃんといっしょに」は、市民の間に定着し参加人数が増えている。			
事業の課題・問題点	図書館が企画立案する講座のため、内容が文学に偏ってしまいがちである。偏りを解消するためには市民から講座に対する意見を収集し、全ての市民に学ぶ機会を提供できるよう、多種多様な内容の講座の構成に努めなければならない。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	乳幼児を対象にした事業を定期的実施しているため、館内では親子で本を選んでいる姿がよく見かけられるようになった。実際、児童書の貸出冊数は増加している。 乳幼児の頃から「本」に親しむことで、自然に読書の習慣が培われていくと図書館では考えているため、これからも市民に気軽に来館してもらえ図書館作りを目指したい。
-------------------	--

(有 識 者 意 見)

有 識 者 意 見	講座やお話会などを通じて、事業の目的である読書活動の推進や図書館利用の促進に十分貢献している。これからも、市民のニーズをいろんな場面で把握することに取り組み、気軽に利用できる図書館を目指していただきたい。 図書館全体の貸出数や来館者数も伸びており、本事業の着実な成果が見られる。文学講座(風蘭忌と文学講座)の参加者数が伸び悩んでいるが生涯学習の観点から見れば参加者人数を追い求めるのが正解とは言えないと考える。年度により内容を変えて、様々な人の関心に答える図書館を目指して欲しい。
-----------	--

(方 向 性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	図書館で事業をすることにより来館者が増加し、図書の貸出も増え、相乗効果となった。これからも市民の関心を引き、知識を高める講座やイベントを実施したい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	7
事務事業名	ブックスタート事業	担当課名	図書館
係 名	新庄図書館・當麻図書館	施 設 名	葛城市立図書館

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養		
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する		
事業の目的	赤ちゃんと保護者が触れ合う機会をつくれるよう絵本を介して、行政と地域が連携して子育てを支援する。			
事業の内容	赤ちゃんと保護者が絵本を楽しみながら、かけがえのないひとときを過ごし、親子のコミュニケーションが豊かに育めるよう、おはなしボランティアと協力し、4ヶ月児健診では絵本の読み聞かせを行うとともに、赤ちゃん絵本を1冊プレゼントする「ブックスタート」事業を実施している。 また、2ヶ月児健診は「こんにちはえほん」と称し、保護者を対象にブックスタートの意義を説明し、保護者にも絵本の読み聞かせを体験してもらう取組を行っている。			
事業対象	4ヵ月児健診対象の赤ちゃんとその保護者			
事業年度	■	区分指定無	□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	平成２８年度決算	平成２９年度決算	平成３０年度予算
			事業費 ①	294	291	280
			内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担	294	291	280
			人件費 ②	529	550	550
			総コスト①＋②	823	841	830
実績と 成 果	区 分		単位	平成２８年度実績	平成２９年度実績	平成３０年度(目標)
	事業 実績	ブックスタート	千円	294	291	280
	事業 成果	ブックスタート	組	328	291	350

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)			
	☒ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
事業の評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☒ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	A A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	図書館の事業として「おはなし会」、「こんにち絵本」、「あかちゃんといっしょに」を実施しているため、児童書の貸出冊数は年々増加している。中でも「あかちゃん絵本」の利用が多いのは、ブックスタートの影響が大きいと実感している。館内では親子が一緒に本を選ぶ姿がよく見られるようになり、絵本が親子のふれあいや、豊かな関わりを育むきっかけになっていることが感じられた。			
事業の課題・問題点	ブックスタートは、図書館のおはなしボランティアの協力のもと、毎月実施している。しかし、おはなしボランティアも様々な事情からブックスタートへの協力が困難になりつつあり、この先ブックスタートを安定して実施できるのか、不安定な状態である。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	葛城市の子育てを支援するためにも、ブックスタートは継続して実施したい。そのためには、ボランティアの確保が不可欠である。しかし、今まではおはなしボランティアのメンバーの確保と育成に努めてきたが達成できていない。今後は、個人的にブックスタートへ協力してもらえらる人材を探すことや、他課に所属するボランティアにも協力を願うなど、事業の継続につながる対策を早期に図りたい。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	このブックスタート事業は、心豊かな人づくりにつながるるとともに子育て支援に十分貢献している。今後も行政と地域が連携して実施してください。また、この事業を継続していくためにもボランティアの確保及び育成に力を入れていく必要がある。 市内に住み暮らすほとんどの親子が本事業を通じて図書館に触れる機会を得ている。毎年配布本を改めていることや、兄弟や双子には異なる本を手渡すなど、きめ細やかな気配りが見られる。成果は着実に数字にもあらわれているが、課題・問題点にあるようにボランティアの確保に勤めていただきたい。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	ボランティアの確保が最重要課題である。図書館独自で解決ができない場合は、他課のボランティアにも協力を要請し、連携を図りながらブックスタートを継続したい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	8
事務事業名	成人式式典事業	担当課名	生涯学習課
係 名	生涯学習係	施 設 名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり			
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う			
事業の目的	新成人が大人になったことを自覚し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ますため、国民の祝日に関する法律に基づく成人の日に合わせて本事業を行う。大人としての責任を感じ、義務を果たすことの必要性を実感するための機会としたい。				
事業の内容	新成人による新成人のための成人式にするために、新成人からスタッフを募集し、企画・運営等について協議を重ね、会場舞台設営や飾り付け等の諸準備も行うなどして、本事業を実施する。				
事業対象	新成人及び新成人関係者				
事業年度	■	区分指定無	□	平成	～平成間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	平成２８年度決算	平成２９年度決算	平成３０年度予算
			事業費 ①	948	977	1,000
			内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担	948	977	1,000
			人件費 ②	3,233	3,494	3,495
			総コスト①＋②		4,181	4,471
実績と 成 果	区 分		単位	平成２８年度実績	平成２９年度実績	平成３０年度(目標)
	事業 実績	決算額	千円	948	977	1,000
		スタッフ会議	回	7	8	8
	事業 成果	参加者数	人	290	274	250
		対象者人数	人	371	374	340

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)							
	☐	増加	☒	横ばい	☐	減少	☐	かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)							
	☐	十分貢献している	☒	概ね貢献している	☐	あまり貢献していない	☐	貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)							
	☐	十分できている	☒	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)							
	☒	十分できている	☐	できている	☐	あまりできていない	☐	できていない
評価の説明	A A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要							
事業の課題・問題点	新成人からスタッフを募集し、新成人が生み出すアイデアを多く盛り込み成人式を企画し、新成人が最も望むであろう形で成人式を実施する事が出来、参加者からの反応は概ね良いものとなっている。舞台上で恩師とのコラボレーションを実施。新成人、恩師とのかけあいで当時のことを振り返りながら、その当時に思いをはせることができ、興味深い式となり成功裏に終えたと考えている。 このように従来とは違ったスタイルでの成人式を実施することが、他市町村と比較して高めの参加率につながっていると考えられる。							

評価を受けての改善点(過去3年間)	行政側のこれまでの経験や実行委員会のノウハウを上手くスタッフ側へ伝達し、それぞれの年度の新成人の色を出してやれるよう指導・助言を行っているが、今後の課題と考える。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	新成人スタッフを中心となつての企画運営は、大変有意義であり、記憶に残る成人式になり評価できる。しかし、新成人スタッフのアイデアを引き出し積極的に企画・運営出来るような雰囲気づくりが重要になってくる。行政側のスタッフの経験を活かし新成人が活動しやすい雰囲気づくりに取り組んでください。 市内全成人の73%が式に出席しており、報道などで問題視される騒動も無く、十分な成果を上げている事業である。欲を言えば、ノウハウや助言が市職員からスタッフへと伝えられている現状から、スタッフから次年度スタッフに引き継ぎそれを行政がサポートする立場となるように改善されれば、さらに若い発想力が活きた式になるのではないかと思います。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐	さらに重点化する	☐	事業の縮小を検討する
	☒	現状のまま継続する	☐	休止、廃止を検討する
	☐	見直しのうえ継続する	☐	終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等)	毎年、新成人が企画・運営スタッフとなるため、安定した成果となることは難しいが、積み上げた過去の実績事例等、可能な限り情報提供や助言を行ってゆくとともに、実行委員会に先輩の経験を述べていただく機会を設定し、情報交換や新成人目線でのノウハウの伝達など行い、心に残る成人式となるよう企画運営、助言を行っていきたい。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	9
事務事業名	生涯学習人材バンク事業	担当課名	生涯学習課
係 名	生涯学習係	施 設 名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	豊かな知識・経験・技能等をお持ちの市民にボランティア活動として学校教育や社会教育のお手伝いをいただき、本市教育のより一層の振興を図ろうとするものである。 健康で生き甲斐のある明るく住みよいまちづくりに役立つことを目的に、人材バンク募集・登録及び派遣により生涯学習の推進を図る。				
事業の内容	人材バンク募集及び登録に基づき、自主的に活動している市内の団体やグループ、サークル等の学習活動の支援のための斡旋や派遣を行う。				
事業対象	市内自主活動グループ等				
事業年度	■	区分指定無	□	平成	～平成間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成28年度決算	平成29年度決算	平成30年度予算
		事業費 ①		26	30	30
		内一般財源		26	30	30
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②				
		総コスト①+②		26	30	30
実績と 成 果	区 分		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度(目標)
	事業 実績	決算額	千円	26	30	30
	事業 成果	登録者数	人	57	57	57
		派遣講師数	人	25	25	25
		受講者数	人	24	24	24

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)							
	☐	増加	☒	横ばい	☐	減少	☐	かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)							
	☐	十分貢献している	☐	概ね貢献している	☒	あまり貢献していない	☐	貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)							
	☐	十分できている	☐	できている	☒	あまりできていない	☐	できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)							
	☐	十分できている	☐	できている	☒	あまりできていない	☐	できていない
総合評価	C		A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要					
評価の説明	派遣依頼数は極僅かであり厳しい状況が続いている。他課が実施する事業への講師派遣の実績があるが、今後も積極的に新規開拓を行っていかなければならない。							
事業の課題・問題点	派遣依頼数が少ないため、他の事業へ積極的に講師を紹介し人材バンクの利用を促したい。また、個人からの派遣依頼の問い合わせもあるが、現時点では団体からの依頼のみ受託しているのが個人の問い合わせにも紹介を行っている。							

評価を受けての改善点(過去3年間)	市広報での紹介や他課への事業説明と講師紹介を行っている。
-------------------	------------------------------

(有識者意見)

有識者意見	市内の自主活動グループ等からの派遣依頼が少なく、有意義な活動ができていないことに問題があると思われる。この事業の目的を再確認し、見直しをする必要がある。 数年問題点が報告されているにもかかわらず、改善が見られない。派遣状況が年次によって変化が無いので本事業が無くとも個人の繋がりで見直し現状のニーズには応える事ができると考えられる。新規ニーズもほとんど見当たらない。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐	さらに重点化する	☐	事業の縮小を検討する
	☐	現状のまま継続する	☒	休止、廃止を検討する
	☐	見直しのうえ継続する	☐	終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等)	他の事業とのかねあいもあり、公民館活動での活用の際に周知、この事業とのすみわけも必要であり、検証していく。			

教育委員会事業評価シート

		事業No.	10
事務事業名	青少年健全育成事業	担当課名	生涯学習課
係 名	青少年健全育成事業	施 設 名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	教育・学習による未来の市民づくり		
	施策目標	子どもの健全な育成に対する各種支援を行う		
事業の目的	次代を担う青少年の健全な育成を地域ぐるみで図る。			
事業の内容	市青少年健全育成協議会を組織し、所属団体の校長会・生徒指導主任者会・PTA協議会・県青少年指導員・高田警察署少年補導員の5団体間の連絡調整を行い、下記の活動を推進する。 ①広報・啓発活動の推進(市広報誌への掲載・駅等での啓発活動) ②非行防止と環境浄化運動の推進(イベント開催時等での巡視活動)			
事業対象	市内青少年			
事業年度	■	区分指定無	□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成28年度決算	平成29年度決算	平成30年度予算
		事業費 ①		400	400	400
		内一般財源		400	400	400
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②		1,742	1,801	1,801
		総コスト①+②		2,142	2,201	2,201
実績と 成 果	区 分		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度(目標)
	事業 実績	会議	回	5	6	6
		研修会	回	1	2	2
		巡視活動	回	3	3	3
		街頭啓発	回	2	3	3
	事業 成果	会議	人	73	78	80
		研修会	人	5	10	10
		巡視活動	人	53	62	65
		街頭啓発	人	54	78	80

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	各種イベントでの啓発活動やのぼり旗の設置、巡回指導など当初の活動計画どおりに実施できたが、協議会として所属団体間の連絡調整だけでなく、メンバー自身各々の仕事を持ちながらの活動もあり、限られた時間で互いに協力して活動できるような具体的な取り組みを進めることが必要であると考え。 巡視活動・啓発活動は各所属団体でも実施しているが、実績と成果に掲載した数は市青少年健全育成協議会が全体で取り組んだ数を示す。			
事業の課題・問題点	7月の「青少年の非行・被害防止強調月間」及び11月の「子ども・若者育成支援強調月間」についての啓発活動を行っているが、市民が意識を持って自分たちの手で地域の青少年を育成するという行動に結びつくところまでには達していない。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	平成28年度から子ども・若者サポートセンターが設置され、家庭環境やこころの病などに起因する青少年の育成等、今後も連携をはかっていきたい。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	この事業は、5団体で組織され地域への情報提供・巡視活動・啓発活動を行い取り組んでもらっている。しかし、地域ぐるみの活動までには至っていない。市内のいろんな団体やグループに、情報の共有が出来るような情報発信の場が必要である。 市の未来を背負う青少年の健全な育成は欠かすことのできない未来への投資である。本事業は行政と他団体とが連携して運動し、長年に亘り信頼と協力関係を築いている。ただ、課題に挙げているように「青少年育成に対する市民の意識喚起」の部分が不足している。これは行政の役割であろうから、新しい時代に即した取り組みや、地元ネットワークを活かした取り組みなど、他団体に頼ることなく行政としても新たな試みが行われることに期待したい。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	市民が地域の青少年を育てるという点では、現在の街頭啓発や無線放送での啓発では限界があると感じられる。多くの人に直接PRできる公園まつりやゆめフェスタなどでの協議会の活動に工夫を凝らし考えて行きたい。 学校、子ども若者サポートセンター等、各々の機関とも情報共有しながら、引き続き事業の継続を行っていきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	11
事務事業名	学校・地域パートナーシップ事業	担当課名	生涯学習課
係 名	生涯学習係	施 設 名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	学校教育の充実と地域・家庭の教育力の向上を図り、地域住民と生徒との異世代交流を通して地域の連帯感を高める。				
事業の内容	学校教育の充実と地域・家庭の教育力の向上を図るため、市内各小・中学校に学校支援地域コーディネータを設置し、学校支援ボランティアの派遣等を行いながら環境整備支援活動等を中心に支援を行っている。				
事業対象	市民及び市内小中学校教員				
事業年度	■	区分指定無	□	平成	～平成間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分	平成２８年度決算	平成２９年度決算	平成３０年度予算	
		事業費 ①	2,999	2,597	3,000	
		内一般財源	1,237	866	1,000	
		内国・県補助金	1,762	1,731	2,000	
		内受益者負担				
		人件費 ②	2,238	2,242	2,242	
		総コスト①＋②		5,237	4,839	5,242
実績と 成 果	区 分		単位	平成２８年度実績	平成２９年度実績	平成３０年度(目標)
	事業 実績	運営委員会に係る経費	千円	447	340	450
		教育支援活動に係る経費	千円	2,552	2,257	2,550
	事業 成果					

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	これまでの事業は、学校の花壇整備など環境整備中心の支援であり、地域住民や学校を訪れる保護者などから校内の花壇が見違えるほど美しくなったとの声が聞かれ、本事業が一定の効果をあげることができたと考えるが、さらに平成25年度より食育やミシンなど家庭科支援にも取組みを行ってきている。また、コーディネーターには連絡会議を定期的に行い、常に情報共有を図りながら学校間の交流なども行っている。さらに様々な学校行事にも補助員としてその都度、協力いただき学校生徒からも信頼されている。			
事業の課題・問題点	支援を行うためのボランティアの確保が当初からの課題であったため、それぞれの学校でPTA総会での呼びかけや保護者への案内文の発送等で募集を行っていただく事により一定人数を確保する事ができ、この事業そのものが相当認知されてきている。コーディネーターを中心に本事業の理解を深め、なお一層の効果を上げるよう検討したい。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	コーディネーター間の連携を密にし、積極的にお互いの学校の情報共有を図ることで事業内容をPRできるようにした。また、PTA行事や学校行事など様々な機会を通じて事業に対する理解とボランティアの輪を広げるよう努めた。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	地域とともにある学校を目指すためにもこの事業は重要であり、活動内容も多様化してきており、地域住民と子どもたちとの交流が深まり充分評価できる。また、コーディネーターが中心となって活動していくので、今後コーディネーターの発掘及び育成にも力を注いでいくが必要になってくる。 奈良県下でも優れた功績を上げているとして評価されている事業である。その評価の基となるところはコーディネーターの努力と人柄にある。つまりはコーディネーター次第で評価は変わるということである。行政としては現在の優れた人財に学び、次代の人財を生み出す役割を担わなければならない。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	学校、保護者、地域の理解が相当程度深まってきたと考えている。引き続き事業を実施して行くとともに、アドバイザー・コーディネーター間の情報交換や連携などをさらに深め、また、ボランティアの方々の理解、協力をいただきながらより効果のある事業として行きたい。継続の一番の課題は人材であり、現在のコーディネーターの後継者を育てていくことがこの事業の継続されることと考える。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	12
事務事業名	生涯学習まちづくり推進大会	担当課名	生涯学習課
係 名	生涯学習係	施 設 名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	主に市内の小・中学校生の日頃の思いを発表する場とモデル分館(毎年2館指定)が、1年間の生涯学習活動の成果について発表を行う場として本事業を捉えており、明るく楽しい「生涯学習まちづくり」の推進を目指している。				
事業の内容	①平成29年度モデル分館として指定を受けた北花内出花内集会所及び長尾コミュニティ集会所による生涯学習活動発表 ・伝統文化の紹介、地域文化継承及び文化資源の保存等や地域防災活動の取組 ・花いっぱい活動や講座・教室等を通じた区民の交流の機会・場づくりを目指した取組 ②モデル分館指定を受けている2分館による絵画、写真等の展示 ③市内小中学校児童・生徒による学校での体験学習や生活発表的な作文の朗読 ④菊花展表彰式				
事業対象	市民				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成２８年度決算	平成２９年度決算	平成３０年度予算
		事業費 ①		407	500	500
		内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担		407	500	500
		人件費 ②		1,492	2,506	2,506
		総コスト①＋②		1,899	3,006	3,006
実績と 成 果	区 分		単位	平成２８年度実績	平成２９年度実績	平成３０年度(目標)
	事業 実績	参加人数	人	491	511	520
	事業 成果					

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
事業の評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	平成29年度にモデル分館と指定された2館による、各地域における伝統文化や新たな取組等の紹介が行われ、地域文化を再認識、そして新しい時代に即した文化の創造していく地域ぐるみでの取り組みなど、生涯学習活動を通じて地域住民の交流を図る良い機会となっていることに加えて、小中学生の作文発表や文化団体による発表などは、人生の糧となり得る貴重な体験をすることが出来る事業と考えている。			
事業の課題・問題点	本年度についても例年どおり輪番での2館で予定しているが、実情に応じての事業で当該分館ならではの目線で発表いただくようお願いしている。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	指定した分館に年度当初に行っている説明会では、不安を口にされる方も多く見受けられるが、生涯学習を糸口として、地区住民が地域の伝統行事や歴史、生活様式などを通じ、希薄になりつつある地域共同体の再生など、目標を持って取り組むことの重要性を理解してもらい、共通した目的を達成することの充実感を味わってもらえるよう指導している。
-----------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	この事業の一つであるモデル分館の生涯学習活動の発表が、後4年ですべての分館が終わる。しかし、分館の活動や小・中学生の作文発表・文化団体による発表など、地域住民の活発な交流を推進する良い場になっているので、この事業は継続していただきたい。そのために今後、事業内容の検討もお願いしたい。 各分館単位でまちづくり人づくりを促し地域力を取り戻す事業である。担当分館に支給している財源も事業後の監査が行われており、透明性が高い。残りの分館すべて発表が終わる34年度までは現状を維持するべきである。ただし、そろそろその後を意識しなければならない。数十年に一度巡っている機会が「人々の人生の糧」「地域力の底上げ」「伝統の伝承」の場として適切かを判断し、未来を見据えた新たな取り組みを指し示すのも行政の役割である。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	希薄になりつつある地域共同体の再生に向け、そのきっかけづくりとして引き続き後残りの分館の発表を行ってゆくが、その後のモデル分館の発表については、事業の形態を再考して意義ある生涯学習の発表の場として目標を持っていたけよう取り組んでいきたいと考える。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	13
事務事業名	葛城アートフェア事業	担当課名	生涯学習課
係 名	生涯学習係	施 設 名	

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	葛城市の芸術文化のより一層の振興を図るとともに、芸術文化を通じ市内外の住民の交流・地域の活性化を図り、「魅力あるまち葛城市」の発信を目的とする。				
事業の内容	葛城市の文化遺産・展示施設に一般公募の芸術作品を展示し、葛城市を美術館化する試み。アートを通じて広く葛城の魅力を発信するイベントを行う。				
事業対象					
事業年度	☐	区分指定無	☒	平成 27年度	～ 平成 (未定) 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成２８年度決算	平成２９年度決算	平成３０年度予算
		事業費 ①		7,635	7,017	3,000
		内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担			3,538	3,000
				7,635	3,479	
		人件費 ②		5,472	5,868	5,868
		総コスト①＋②		13,107	12,885	8,868
実績と 成 果	区 分		単位	平成２８年度実績	平成２９年度実績	平成３０年度(目標)
	事業 実績	決算額	千円	7,635	7,017	3,000
	事業 成果	来場者数	１日当	1,523	1,543	1,580
		総入場者数	５日間	7,616	7,719	7,900

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☒ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	前年度から引き続き3回目の開催であったが、認知度は高まってきており、出品者数および来場者数は増えている。さらに増やせるように広報、PRに力を入れたい。平成29年度は第32回国民文化祭が奈良県で開催されるにあたり国民文化祭の中の1事業として参加している。			
事業の課題・問題点	昨年に引き続き、実施状況等をデータ化しスムーズな運営を図れるよう検討をかさねている。来場者の数は昨年より上回ったが市民の出品者数は2割程度にとどまっており、募集要項等の配布も広報誌とともに配布しているが更なる工夫が必要である。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	市民の出品者増をはかるため、各学校や各種団体など各方面に更なる働きかけをおこなっていく必要がある。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	本年度も葛城市の文化遺産・展示施設を利用して一般公募の芸術作品の展示及び葛城の魅力を発信するイベントを実施することによって、目的である「魅力あるまち葛城市」の発信は、おおむね達成できている。来年度より補助金がなくなることなので、事業内容の見直しが必要になってくる。しかし、成果が上がり認知度も高まってきている状況なので今後とも「魅力あるまち葛城市」の発信をしていただきたい。 国・県の補助が漸減し市単独事業に移行する中で、事業変革の時期を迎えている。今一度「事業目的」と「市を美術館化する」という事業内容に立ち帰るときである。大きく予算をかけてインバウンドをも狙う市の看板事業とするのか。他事業との共催など工夫を凝らし住民・地域に根付く新たな地域力の柱とするのか。収益を得て持続可能な事業性の高いコンテンツとし、いずれは行政の手を離れて一本立ちする「葛城市の新しい魅力」とするのか。その分岐点を迎えている。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等)	葛城市の文化遺産・展示施設に一般公募の芸術作品を展示し、葛城市を美術館化する試みでアートを通じて広く葛城の魅力を発信するイベントを行うことが目的ではあるが、今後継続して本事業を実施していくならばコンセプトは何か、集客をすることを目的にするのか、また補助金がなく、経費削減で実施することを踏まえて必然的に再考していく必要がある。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	14
事務事業名	公園まつり実行委員会業務	担当課名	中央公民館
係 名	中央公民館係	施 設 名	中央公民館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養		
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する		
事業の目的	地域住民が集う中で、市民ひとりひとりが仲間としての絆を強め、地域文化への理解をより一層深めることで誇りをもった活力あるまちづくりへの参加を目的とする。			
事業の内容	葛城市公園まつり実行委員会を主催者として、葛城市体育協会および区長会をはじめとする約21団体の協賛により屋敷山公園一帯で野外イベント（太鼓や踊り、こままわし、ジャグリングパフォーマンスショー、演劇、フラダンス、吹奏楽等）を実施するとともに、模擬店、フリーマーケットの出店、盆栽の展示即売会、似顔絵、ニュースポーツなどを同時に行う。			
事業対象	市内地域対象住民			
事業年度	■	区分指定無	□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト		区 分		平成28年度決算	平成29年度決算	平成30年度予算
		事業費 ① (千円)		1,500	1,500	1,500
		内一般財源(千円)		1,500	1,500	1,500
		内国・県補助金(千円)				
		内受益者負担(千円)				
		人件費 ②		2,590	2,635	2,657
		総コスト①+②(千円)		4,090	4,135	4,157
実績と 成 果	区 分		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度(目標)
	事業 実績	決算額	千円	1,493	1,489	1,500
		企画運営委員会	回	1	1	1
		実行委員会	回	1	1	1
	事業 成果	参加人数	人	10,000	10,000	10,000
		協賛団体	団体	23	21	21

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか。)			
	☒ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☒ 十分できている	☐ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	A A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	平成25年度から毎年5月3日開催に固定したことにより、市民のみならず市外の方々にも定番行事として広く知られるところとなり、多数の来場者で賑わった。また、終日好天にも恵まれ、野外イベントをはじめ模擬店、フリーマーケットも大盛況で、非常に盛り上がった。			
事業の課題・問題点	昭和50年から40年近く続いている伝統ある事業であるが、毎年の開催であるため、文化活動の発表の場を確保しながら集客できるイベント内容にする工夫が必要。 また、協賛願っている各種団体の方々には、公園まつりの他の催し物等にも参加して楽しいひと時を過ごしていただけるよう、運営体制を改善していかなければならない。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	平成24年度から中央公民館に事務局が置かれたことで、準備作業がスムーズに行えるようになった。また、駐車場を増やすことで交通渋滞も解消された。実行委員会が中心となり、関係団体もより良くする工夫をしている。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	定番行事として広く知られるところとなり、市民も楽しみにしている事業である。毎年、実行委員会が主体となって関係団体に働きかけ円滑に事業が実施され充分評価できる。しかし、マンネリ化の解消や集客できるイベント内容の企画・運営において、もう少し会議の回数を増やすことによって、各種団体との綿密な意思統一が必要である。 40年続く歴史ある事業だけに、マンネリ化は否めない。事業目的にある「市民ひとりひとりが仲間としての絆を強め」「団体間の協力」にしか現れておらず、目的達成への工夫が見られない。「事業を行うこと」が目的になってはいないだろうか。参加員数の検証自体も行われていないことも問題である。ただし、このような取り組みが、いざ葛城市が被災したときに大きな力となることを忘れてはいけないと思う。葛城市の地域力の中心を担う事業であり続けることを期待する。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	今回、実行委員会を中心とした事業実施を評価いただいたところであるが、イベントの形態化・マンネリ化にならないよう努めるとともに、地域住民による運営により地域住民の出会いの場、地域の絆づくりの場とし、地域活性化の一助となる運営に努めたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	15
事務事業名	地区館教室・講座事業	担当課名	中央公民館（當麻文化会館）
係 名	地区館係	施 設 名	5 地 区 館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	生涯学習社会の構築を目指す一環として、地域において趣味を同じくする人々や教養を身につけたいと思う人々が地区館に通い、自主的な活動を推進する機会を提供するとともに、交流を深め、活動の輪を広げる。				
事業の内容	生涯学習社会の構築を目指す一環として、地域において趣味や興味を同じくする人びとが身近な地区館に集い、学習する活動を支援するとともに交流を深める機会を提供する。 疋田、忍海、北花内、磐城、當麻の5地区館で絵画等13教室、俳句の1講座を開講し、教室は6回～20回の実施、講座は4回実施で開講している。 開講にあたっては、毎年3月の『広報』とともに各戸配布する『教室・講座ガイド』に掲載し、受講生の募集を行っている。				
事業対象	市内 在住・在勤者				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト		区 分		平成28年度決算	平成29年度決算	平成30年度予算
		事業費 ① (千円)		1,154	1,150	1,212
		内一般財源(千円)		1,154	1,150	1,212
		内国・県補助金(千円)				
		内受益者負担(千円)				
		人件費 ②		1,244	1,274	1,274
		総コスト①+②(千円)		2,398	2,424	2,486
実績と成果	区 分		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度(目標)
	事業実績	各種教室・講座	総回数	132	133	133
	事業成果	参加人数	人	250	224	253
		のべ受講者数	人	1,869	1,835	2,604

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	身近な地区館・分館において生涯学習教室・講座を開催することで気軽に参加受講でき学習意欲の向上と生涯学習の進展に大きく寄与している。料理・絵手紙・太極拳・パッチワークの4教室で講座開始後、及び終了前のそれぞれ15分～20分間程、また、書道・ちぎり絵の2つの教室については終了までスタッフが同席し講師とも協力のうえ教室の支援をきめ細やかに行うとともに、受講者のニーズの把握に積極的に努めてきた。受講者が学習していく過程において、他の受講生との繋がりをもちながら「学ぶ」という共通項のもと人間関係が築かれ、教室に一体感が生じ、教室・講座をより楽しいものと考えていただくことで学習効果があがっている。			
事業の課題・問題点	毎年継続して受講しておられる方が多数あり、教室・講座での学びを楽しみにされている。同時に学び仲間ができ、その方たちとのふれあいも楽しみにされている。一方、新しい受講者と習熟度に違いが生じている教室・講座もある。また、新講座・教室開設や実施回数増加等の要望もあるが、受講者数が見込めるのか、予算と場所の関係などもあり、引き続き検討課題事項である。定員をオーバーした教室・講座が4教室ある。いずれも僅数であり、講師の好意と受講者の理解により実施することができた。受講希望者増にどう対応していくのか、今後の課題点である。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	平成28年度、受講者のニーズに応え、當麻地区手芸教室の内容を変え、パッチワーク教室にした。北花内の俳句教室を閉じ、茶道教室を新しく開講した。平成29年度、絵画教室の講師の変更をし、絵画教室の再スタートを図った。北花内の書道教室を閉じ民謡教室を新しく開講した。平成30年度、受講者の学びのニーズに応えるべくパッチワーク教室の学習回数の増加を図った。北花内で茶道教室を閉じ、生け花教室を新しく開講した。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	市民の誰でもが気軽に参加でき、学習意欲の向上と生涯学習の進展に寄与しているのが身近に通える地域の公民館である。本年度も学習回数を増やしたり、新講座を開講したりしてマンネリ化をなくすなど、一定の成果が見られる。しかし、各公民館によって各教室や講座数の偏りがあり、地区ごとのニーズを的確に把握し、検討する必要がある。 地域住民が気軽に生涯学習に取り組める事業である。講座内容もニーズに応じて改変されており、運営も適切であるように思える。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	地域の公民館で学び合い、楽しみながら交流を深めることは、地域の繋がりを高めることにつながり、地域社会の人間関係を再構築していく貴重な機会でもある。今後も多くの方に参加願えるよう工夫していきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	16
事務事業名	中央公民館 當麻文化会館 教室・講座事業	担当課名	中央公民館・當麻文化会館
係 名	中央公民館係	施 設 名	中央公民館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	市民等の教育、学術、文化及び教育向上のため、「教室・講座」を開講して学習活動を支援するとともに、仲間づくりなど交流の機会を提供する。				
事業の内容	『社会教育法』第20条(目的)、第22条(公民館の事業)ならびに『公民館の設置及び運営に関する基準』第3条(地域の学習拠点としての機能の発揮)に基づき、市民等の教育、学術、文化及び教養の向上のための「教室・講座」を開講して学習活動を支援するとともに、仲間づくりなど交流の機会を提供する。 1. 中央公民館では、 6教室 成人4:華道、きもの着付け等、子ども2:絵画、茶道 24講座 成人14:菊づくり、ガーデニング、暮らしのマナー 等 子ども10:親子クッキング(土・日)、親子お菓子・パンづくり(土・日)、親子陶芸(土・日)、野外活動体験 等 2. 当麻文化会館では、 24講座 成人19:絵画、男の食卓等(8)、1日講座(5)、パソコン講座(6) 子ども5:親子おもしろ工作、寺子屋、葛城塾 を開講。 開講にあたっては、毎年3月の『広報』とともに各戸配布する『教室・講座ガイド』において、市民に周知するとともに、受講生の募集を行っている。				
事業対象	市内在住者・在勤者				
事業年度	■	区分指定無	□	平成	～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト		区 分	単位	平成28年度決算	平成29年度決算	平成30年度予算
		事業費 ① (千円)		4,226	3,935	4,675
		内一般財源(千円)		4,226	3,935	4,675
		内国・県補助金(千円)				
		内受益者負担(千円)				
		人件費 ②		10,962	10,497	10,572
		総コスト①+②(千円)		15,188	14,432	15,247
実績と成果	区 分		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度(目標)
	事業実績	中央公民館	謝金	2,849	2,722	3,358
		當麻文化会館	謝金	1,377	1,213	1,317
		合計	謝金	4,226	3,935	4,675
	事業成果	中央公民館	受講者数	3,689	3,533	4,236
		當麻文化会館	受講者数	2,088	1,690	2,282
		合計	受講者数	5,777	5,223	6,518

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献できていない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか。)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	学習の促進とふれあいの場を提供することを目的に、成人・子ども・親子を対象とした各種教室・講座を実施している。 成人講座では、華道、茶道、書道、料理、着付け、ヨガ、パソコンといった 趣味や教養を活かした講座を、子ども・親子講座では「作る楽しさ」を学ぶ、料理やパン・菓子づくり、陶芸を開催した。 また、夏休みには子ども向けのイベント講座として、野外活動体験、寺子屋を開催。どの講座も人気で、受講者の受講意欲や関心が非常に高く、親子対象講座を中心に多くの講座が抽選となっている。			
事業の課題・問題点	教室・講座は受講料が無料(教材費等は受講者負担)のため安易に捉えられる向きがあり、同じ教室や講座を毎年受講される方が見受けられたり、受講辞退者数が受講者全体の10%を越えるなど問題点がある。パソコン講座では、現在使用しているパソコンが古い機種のため、WINDOWS 7 から10への更新できないという問題点がある。また、現在開催している講座において、講師の高齢化(健康面)、応募者の数の減少や高齢化など問題点がある。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	平成29年度は、中央公民館では匠の和食講座とブリザーブドフラワー講座を新たに開講。募集定員を満たす受講者があった。 当麻文館では布花講座と1日講座のランプシェード講座に替わり、ヨガ講座を2講座(前・後期)に増すとともに1日講座として、たのしいマジックショー講座を設けた。また、パソコン講座の後期募集をやめ、前期を通年として開催数を6回から10回に増した。平成30年度は、1日講座のうち竹細工講座以外の4講座を廃止し、新たに4講座を設けた。定期講座では、応募の少なかったドイツ装花講座を廃止し、はじめてでもできるマジック講座、体と心の健康体操を設けた。パソコン講座については、今年度は平成29年度と同様に行い、今後のこと(廃止、新機種入れ替え)については、市の方針が出された後、検討していく予定である。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	毎年、市民の学習ニーズを的確に把握し、教室・講座の精選を行い、誰でも気軽に参加できる教室・講座の実施に取り組み一定の成果が見られる。これからもいろんな情報を収集し、学習活動の支援に取り組んでください。 地域住民が気軽に生涯学習に取り組める事業である。講座内容も定員の半数を切れば閉講するなどニーズに応じて改変されており、運営も適切であるように思える。PCのOS問題が課題点として挙がっているが、この解決には少なくない費用を伴う上に、臆っつことになってしまう。講座内容を見るとワード・エクセル等ソフト操作の基本的内容なので、火急の問題ではない。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 上記を踏まえての 担当課意見 ・数値目標 等	教室講座の実施・運営について評価いただきありがたい限りです。生涯学習は地域住民のニーズを踏まえ継続するもの、新たな提案による学びの選択肢の充実を図りたい。また、新たな人間関係を築く場でもあることから、より多くの方が参加できるものとしたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	17
事務事業名	文化振興事業	担当課名	新庄・當麻文化会館
係 名	総務係・文化会館係	施 設 名	新庄・當麻文化会館

(計 画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	生涯学習による豊かな心の涵養			
	施策目標	芸術活動・文化活動を奨励し、市民の文化を形成する			
事業の目的	市民に質の高い文化に触れる機会を設け、葛城市芸術文化を発信し、創出する。				
事業の内容	魅力ある芸術鑑賞事業を展開することによって、市民が新たな芸術、文化に触れる機会を提供し、また、自らがいきいきと芸術文化活動に参加することにより、地域の文化水準の向上を目指していくことを目標としている。 平成29年度はミュージックコンサートとしてkiroroや青窈コンサートを開催するとともに、ジャズコンサートとしてHZETTRIO、綾小路きみまろバラエティショー等、自主事業を実施した。また、葛城地区を舞台とした映画「天使のいる図書館」の上映を行なった。次に市民参加・参画型事業として、新庄文化会館ではJ-POP限定のど自慢大会、市民劇団『風塾』の公演を、また當麻文化会館においては演劇フェスティバルをはじめ、市民劇団『くすのき』の公演、夕涼みコンサート、アンサンブルウィズクリスマスコンサートを開催した。				
事業対象	市民及び近隣市町村の住民				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分	単位	平成２８年度決算	平成２９年度決算	平成３０年度予算
		事業費 ①		18,471	27,306	25,595
		内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担		11,700	15,754	14,595
				235	0	0
				6,536	11,552	11,000
		人件費 ②		8,329	8,694	8,694
		総コスト①＋②		26,800	36,000	34,289
実績と 成 果	区 分		単位	平成２８年度実績	平成２９年度実績	平成３０年度(目標)
	事業 実績	自主事業入場料	千円	6,536	11,552	11,000
		自主事業委託料等料	千円	18,195	27,306	25,000
	事業 成果	自主事業入場数	人	5,041	4,979	5,000
		自主事業 (有料)開催数	本	4	4	4
		自主事業 (無料)開催数	本	8	7	7

(評 価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	市民参加・参画型のJ-POP限定のど自慢、市民劇団、クリスマスコンサート等の公演事業は周知がかなり進み、市民が手軽に文化や芸出と触れあえる機会、自らが創造、発信するかけがえのない機会として大変有意義なものとなっている。			
事業の課題・問題点	有料の事業については、市民が興味や関心を持ち、満足してもらえる事業を実施することで、集客人員の増加が期待できる。観客ニーズにあった公演等に絞り込んで計画し満席にする方向を目指しているが、財政面から考えると、観客のニーズにあった自主事業においてもキャパシティの面で事業コストの課題が残るため、事業本来の目的と市民ニーズの兼ね合い等を十分に検討していきたい。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	ポスターチラシ等を置いてもらえる場所の発掘や、タウン誌などの無料広告を利用して多方面に周知し宣伝効果を上げることによって集客につながられた。自主事業公演時に毎回アンケートを実施し、ニーズにあった催しを開催することでチケット完売を概ね達成出来た。さらに新たな試みとして「友の会」特権としてのイベント開催やキョードー大阪との共催事業、また「宝くじ文化事業」を活用し補助を受け、盛況に終えることが出来た。
-----------------------	---

(有識者意見)

有 識 者 意 見	毎回アンケートを実施することによって市民のニーズを把握し、事業内容を検討するとともに啓発活動にも力を入れ、評価できる。また、キャパシティの面で事業コストに課題があるが、それをできるだけ解消するためには、集客人員の増加が必要である。そのためにも「友の会」の会員募集にも取り組んでいく必要がある。 事業目的に即した運営がなされている。市に一流アーティストを招き高質な文化に触れる機会を設け、また市民参加型事業としての面も保っている。会場の限られた席数では単独黒字に導くことができず、行政の財源がないと事業が継続できないという潜在的な問題点を有している。
-----------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	今後も住民参加・参画型事業を継続すると共に、日本古来の伝統文化や生演奏の発表会・練習等、さまざまな文化芸術への場の提供や事業企画を行っていきたいと考えます。 新庄文化会館では、「友の会」の活性化が図れるよう質の高い住民のニーズにあった公演をコスト面や費用対効果も含め検討していきます。 當麻文化会館においては、文化芸術の普及・育成・住民参加型の事業を文化活動支援として長期的に継続してまいります。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	18
事務事業名	展示（常設展・特別展等）事業	担当課名	歴史博物館
係 名	歴史博物館	施 設 名	歴史博物館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	調和・共助～多種多様な価値観が共存するまち～			
	政策目標	歴史・文化と調和的な地域づくり			
	施策目標	歴史や文化の保護・活用を図る			
事業の目的	近年、市民の地域の歴史・文化に対する関心が薄くなってきており、また知る機会も少ない状況にあることから、合併により生まれた葛城市の歴史や伝統文化を伝えていく必要がある。この葛城地域の歴史文化を特別展や常設展などの展示会を通してわかりやすく解説・紹介し、市民の愛郷心を育んでいくことを目標としている。				
事業の内容	展示会（年間企画展3回・特別展1回）の開催、展示図録・目録等の発行。				
事業対象	市民等来館者				
事業年度	■	区分指定無	□	平成	～平成間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成28年度決算	平成29年度決算	平成30年度予算
		事業費 ①		2,762	2,248	4,693
		内一般財源		1,757	1,348	3,920
		内国・県補助金				
		内受益者負担		1,005	900	773
		人件費 ②		10,587	10,587	10,587
		総コスト①+②		13,349	12,835	15,280
実績と 成 果	区 分		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度(目標)
	事業 実績	入館者数	人	4,307	3,572	4,000
	事業 成果					

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☒ 十分貢献している	☐ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか。)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	博物館の主要事業として、葛城に関するテーマで特別展・企画展など年4回の展示会開催を行った。入館者数は、前年に比べ若干増となった。また、展示会開催に要する経費について、従来から展示パネル製作など業者委託業務で施工していた展示装飾についても、質感的に劣るが経費節減のため、できる限り職員の手作り製作に努めた。なお、展覧会開催の周知の方法により、入館者数も大きく影響するが現状において市広報・HPや県広報、市内放送、市内各区の掲示板へのポスター掲示、新聞報道などを活用し、市民に対して特別展等の開催をお知らせし、郷土の歴史に対し関心を持つ市民等に、展示会情報について周知できていると思われる。入館者数においては、年4回の特別展等の開催によりリピーターも多く、安定した観覧者数の傾向が見られるが、更に多くの市民に、葛城の歴史文化に興味を感じ、入館していただけるように、小まめな広報活動に努めたい。			
事業の課題・問題点	特別展・企画展は例年通り年合計4回の開催をしたが、本事業の予算の殆どは特別展開催の必要経費であり、他の企画展は、展示パネルを職員で手作り製作するなど、できる限りの展示事業経費節減の中で開催準備を行っている状況である。ただ、展示会開幕準備ができて、展覧会等広告経費の予算削減により広告範囲が削減されたままで、催し物情報(ポスター・チラシ)による発信範囲も限られ、市外など広域に情報が届きにくい状態である。展示事業等の開催経費についても、毎年、経費削減に努め、予算等の効果的な運用努力を行うものの、更に求め続けられる、経費削減と入館者増への目標達成努力は葛城市の社会教育推進の一翼を担う公的博物館活動の普及啓蒙を推進するうえにおいて、厳しい状況である。			

評価を受けて
の改善点
(過去3年間)

本事業において、事業目的や内容及び本事業の有識者の意見や評価の結果を受けて、市の緊縮予算にもかかわらず本事業実施の有益性や成果が評価され、例年並みの事業実施の予算措置もなされている。しかし、博物館展示施設の設備維持に要する改修費は多額の予算を伴うことから、その為の予算確保に至らず、改善に至っていない。今後、本事業の目的・内容を継続していけるよう、博物館施設設備の維持の為の予算要求にも努めたい。

(有識者意見)

有識者意見	本年度もいろんな工夫を凝らして展示会を実施され安定した観覧者数を維持されていることは十分評価できる。市民が地域文化等にふれ、愛郷心を育むためにもこの事業は必要であり、適切な予算を確保する必要がある。
	市内小学校の課外学習受け入れなど、低予算で展示を維持している点を評価したい。ただ、現状での入館者数増加には限界があると思われる。人口減少時代を迎え、葛城市の博物館から、周辺自治体を含む葛城地域の博物館へと脱皮できるよう、規約の変更や行政連携などの柔軟性を持たなければ、博物館として生き残るのは難しいのではないかな。

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への 反映方針 (上記を踏まえての 担当課意見、数 値目標等)	博物館の主要事業である展示会をより多くの方々に観覧していただくため、今後とも色んな工夫を凝らした展示会の開催に努めるとともに、市立小学校との歴史学習等における各種連携事業についても、教育推進のため、児童学習の場として積極的に協力したい。そのための展示会の経費や博物館普及活動と施設の維持管理経費に対しても、その必要性を説明し予算要望してまいりたい。そして市民が地域歴史文化等にふれ、更に愛郷心を育んでいけるような事業展開を推進すべく努力してまいりたい。ただ、周辺自治体との行政連携による葛城地域の歴史博物館としての館運営については、財源をはじめ様々な諸問題を多く内包する事から今後の課題として見すえしつつ、当面は市の博物館として、葛城市民の愛郷心を育むための生涯学習活動を主眼とする、運営方針としたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	19
事務事業名	歴史講座開催事業	担当課名	歴史博物館
係 名	歴史博物館	施 設 名	歴史博物館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	調和・共助～多種多様な価値観が共存するまち～			
	政策目標	歴史・文化と調和的な地域づくり			
	施策目標	歴史や文化の保護・活用を図る			
事業の目的	歴史講座等を通じて地域の歴史文化を紹介し、市民が地域の伝統文化等に関心を高め、愛郷心が育まれるようにしたい。				
事業の内容	葛城地域の歴史文化や新しい歴史研究の成果について本講座において、わかりやすく紹介することにより、地域の歴史文化への理解を更に深めると共に、市民の愛郷心を育むことを目標に歴史文化講演会「葛城学へのいざない」を年間13回にわたり開催する。 また、夏季には高学年児童を対象に親子で土器等を制作体験する親子ふれあい講座、秋には市内にて歴史ウォークを開催する。				
事業対象	市民等来館者				
事業年度	☒	区分指定無		☐	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)			区 分	平成 2 8 年度決算	平成 2 9 年度決算	平成 3 0 年度予算
			事業費 ① 内一般財源 内国・県補助金 内受益者負担	170	150	320
				170	150	320
			人件費 ②	950	950	950
総コスト①+②			1, 120	1, 100	1, 270	
実績と 成 果	区 分		単位	平成 2 8 年度実績	平成 2 9 年度実績	平成 3 0 年度(目標)
	事業 実績	参加者数	人	1, 199	1, 207	1, 200
	事業 成果					

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	展示事業とともに博物館の主要事業として、葛城に関係するテーマで歴史文化講座を、年13回、開催した。参加者数は、前年に比べ若干少ないものの、百人以上の参加者が集まることも度々であった。当公開講座を毎月継続開催の希望者も多く、概ね市民ニーズ・施策目標実現に貢献及び目標達成できていると考えられる。また当事業の主な経費の講師謝金も、当博物館職員が講師を務めるなど、経費削減に取組み、限られた予算の中で最適な外部からの講師の選定にも努めている。			
事業の課題・問題点	開館以来、葛城に因むテーマを取り上げ毎月1回開催する本講座であるが、「葛城」にテーマをしぼって開催しているため、以前に開催した講演会と内容・講師が重ならないように年間計画を作成し、また、限られた予算内での講師選びを行うなど、苦慮しているところである。ただ、開催月や天候により、普段よりも講座出席者の思わぬ減少が起こる場合もあり、H29年度においても、僅かながら目標数値に至らなかった。原因は天候不順・参加者側諸事情も影響したと思われるが、企画した講座の全てに強い関心を感じてもらえるよう機会を見い出して宣伝するなど、広報に努め、受講者の増につなげたい。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	本事業において、事業目的や内容及び本事業評価の結果を受けて、市の緊縮予算にもかかわらず本事業の有益性や成果が評価され、例年どおりの事業予算確保もなされている。過去の評価結果をふまえ、講座内容や講師の選定等について更に検討し、昨年引続き特別展・企画展担当職員の講演回数を増やし、受講者の郷土の歴史に対する興味がなおいっそう深まるような講演会の開催を計画するなどして、工夫を凝らした。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	毎年、市民の興味・関心を高めるような講座や事業について検討され、実施されており、評価できる。これからは、啓発活動に力を入れ興味のない市民への関心を高めるために取り組んでください。 少ない予算でよくこれだけの講座数と参加者数を維持していると感心する。職員の努力を率直に評価したい。今後も工夫とアイディアで魅力的な講座を開催していただきたい。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☒ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見、数値目標等)	葛城市の歴史文化伝統が保全・継承されるよう、郷土の歴史文化に焦点をあてた講座等の開催を継続してまいりたい。また、今まで当講座に興味のなかった市民に対しても関心を示してもらえるような講座となるよう、次期講座開催内容の編成時にを更に検討したい。さらに、限られた予算の中でできる限り広く情報発信に努め、市民の郷土愛がさらに高まっていくよう普及活動を行いたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	20
事務事業名	埋蔵文化財等調査事業	担当課名	教育総務課・歴史博物館
係 名	文化財係・歴史博物館	施 設 名	教育総務課・歴史博物館

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	調和・共助～多種多様な価値観が共存するまち～		
	政策目標	歴史・文化と調和的な地域づくり		
	施策目標	歴史や文化の保護・活用を図る		
事業の目的	市内地域の埋蔵文化財の保護。			
事業の内容	市内地域内で開発工事が行われるに際し、市民等より事前に提出される発掘届出書を県教委へ進達する。それについて県教委から通知される指導事項に従い、市の担当職員が現場にて発掘調査や現場立会等を実施し、調査結果終了報告書等を作成し、県教委へ提出する。また、市内地域の範囲確認・保護等のため発掘調査等や記録保存等のための発掘調査等を市教育委員会が主体となり実施し、詳細な調査記録をまとめた報告書を作成し、国・県へ報告すると共に各研究機関にも配布し、埋蔵文化財の保存・研究のために資する。			
事業対象	一般事業者・市民			
事業年度	☒	区分指定無	☐	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成28年度決算	平成29年度決算	平成30年度予算
		事業費 ①		2,000	2,000	2,000
		内一般財源		500	500	500
		内国・県補助金		1,500	1,500	1,500
		内受益者負担		0	0	0
		人件費 ②		3,352	3,352	3,352
		総コスト①+②		5,352	5,352	5,352
実績と 成 果	区 分		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度(目標)
	事業 実績	調査事業	件	6	9	8
		立会等	件	13	14	15
		届出(通知)	件	69	69	70
	事業 成果					

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	合併に伴い葛城市になったことで、埋蔵文化財包蔵地エリアも増大した。それにともない、当該エリア内における開発件数も年々増加し、役所窓口における市民からの遺跡有無確認の問い合わせ対応や、提出書類の進達業務、また発掘調査等の事業実施も人員的に十分でなく対応に迫られ困難な状況であるが、課内における事務事業の調整に苦慮しながらも、所定の成果を上げている。			
事業の課題・問題点	合併に伴い葛城市になったことで、埋蔵文化財包蔵地エリアも増大し、当該エリア内における開発件数も増加した。また、公共事業や宅地開発等土地開発事業が増加傾向にある中で、現場対応できる技術職員配置体制が1名と、旧町体制レベルのままであり、更に博物館業務と兼務であることから、博物館事業との兼ね合いに多くの困難を呈する状況のままである。埋蔵文化財を主担当とする職員が、文化財を有する他の県内市町村なみに配置出来ていないことに問題と課題がある。更に、発掘調査現場における調査に対応できる職員も40歳代1名のみであり、早急な後継者の育成も必要である。については文化財等行政業務の円滑化をはかるため、文化財係(教育総務課)の中に埋蔵文化財等行政業務に対応できる専門技術係職員等の配置をする必要があるのはもちろんの事であるが、増加するであろう発掘調査等の事象や文化財保護のため、行政事務を円滑に対応していく為にも、技術系職員等の新規補充配置と後継者育成が必要である状況である。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	事務の効率化を行うと共に、毎年人事配置の増員も人事ヒアリングに要望しているものの、未改善の状態である。本事業における人事的課題について、人事要望を行っているものの事態の改善に至らず、例年はほぼ同様な問題点を提起し、過去における有識者の意見も葛城市の文化財を保護する為、「後継者の育成も含め、市の発展に応じた人材配置が望ましい。」など、提言もいただきながら、改善できていない。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	去年度も評価したとおり、埋蔵文化財包蔵地エリアの増大に伴い開発件数が増加してきている現状の中、将来的にも文化財を保護していくため人事面において、専門職の育成及び人員の増加は最優先課題である。 長い歴史と文化財を有しながら市街化が進む葛城市。発掘調査は市の発展の下支えをしている。全国的には調査を軽視し事後で問題が表面化する事態も度々報道される。特殊技能を有した職務だからこそ欠員の補充は容易ではない。後継者の育成が急務である。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見、数値目標等)	本市における埋蔵文化財の発掘調査等の業務は、将来のまちづくりに欠かせぬ事業である。近年の開発件数の増加により、それに対応できる専門職員数も限られ、業務を執行するうえで困難な面も多いが、業務の効率化および関係機関との連携をとりつつ、計画的かつ円滑に事業推進が図れるよう努めていきたい。また、今後の業務の円滑化を進め安定化を図るため、関係職員の増員についても要望を去年に引続き行っていきたい。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	21
事務事業名	各種教室開催事業	担当課名	体育振興課
係 名	体育振興係	施 設 名	當麻スポーツセンター他

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	誰もが生涯健康で過ごせるまちづくり			
	施策目標	運動の場の形成を通じた市民の健康の増進			
事業の目的	市民に教室等を紹介し、スポーツに親しむ機会を提供して健康増進を図る。				
事業の内容	在住・在勤者を対象に、スポーツに親しんでいただくきっかけづくりのため各教室を開催する。幅広い年齢層のスポーツニーズおよび教室の実施対象者のニーズを把握し、できるだけ多くの方の参加を目指す（初心者優先）。 年齢や生活環境に適した幅広い市民のスポーツ人口の増加推進に努める。また、親子でふれあえる教室のニーズが高まっているので、さらに充実していく。 また、平成30年度よりジュニアバドミントン教室、トランポビクス教室、健康トレーニング教室が両事業での重複等もあり、総合型地域スポーツクラブ「スポーツクラブ葛城」に移行して実施する。				
事業対象	教室・講座受講者（市内在住・在勤者）				
事業年度	☒	区分指定無	☐	平成	～平成間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成28年度決算	平成29年度決算	平成30年度予算
		事業費 ①		1,554	1,708	1,302
		内一般財源		1,554	1,708	
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②		2,015	2,286	2,286
		総コスト①+②		3,569	3,994	3,588
実績と 成 果	区 分		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度(目標)
	事業 実績	小学生	千円	882	1,022	882
		一般	千円	420	420	140
		親子教室	千円	252	266	280
	事業 成果	小学生	人	225	214	180
		一般	人	71	75	30
		親子教室	組	36	26	40

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト削減しているか。)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	以前より、ジュニアを対象とした体操・テニス・サッカー教室をはじめ、親子を対象としたふれあい体操・テニス教室は人気があり、定員を超過する教室もある中、講師の方々の工夫により、申込者全員を受け入れて教室を開催している。 親子のふれあいの機会づくり、幼児から高齢者まで、運動を始めるきっかけとなり、すべての教室生の体力向上、健康増進に繋がっている。			
事業の課題・問題点	多種多様化するスポーツが増える中、年々施設の利用件数が増え、会場の確保が困難になっている。教室の開催日、開催時間を含めて今後検討していく必要がある。 また、受益者負担で教室等を実施している「スポーツクラブ葛城」との更なる調整が必要だと考えられる。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	その時々で、ニーズ等把握しながら、新規教室、内容改正を行っているが、先述の課題・問題点を踏まえ、教室全体の見直しを行う。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	本年度もアンケート調査により、市民及び実施対象者のニーズの把握に努め、初心者対象の教室を企画・運営され大変有り難いことです。しかし今後、総合型地域スポーツクラブの設立によってこの事業の目的を再確認することによって、事業内容の再検討し、見直しが必要である。 総合型地域スポーツクラブとの住み分けと今後の移行が争点となってくる事業である。平成30年度より「スポーツクラブ葛城」に移行する3教室は、現状人気があり受益者負担を強いても継続できる教室である。今後も同様の移行が進むと考えられるが、となると最終的に本事業に残されるのは人気の無いスポーツということになってしまう。そうではなく、役割で分けるべきではないだろうか。本事業はスポーツへの入り口となって体験を提供し、興味を持った方はスポーツクラブ葛城に入会して本格的に生涯スポーツとして始める。採算の取れる取れないで事業を分けるという結末は避けるべきである。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	総合型地域スポーツクラブに移行が進む中、教育委員会主催の教室のあり方が難しくなってきました。いずれはスポーツクラブにスポーツ教室の完全移行を目指してはいますが、スポーツクラブの教室はまだ始まったばかりで軌道にのるにはしばらく期間が必要です。ご意見の通り、人気有り無しという考え方ではなく、運動のきっかけづくりを教育委員会主催の教室で、更に充実した内容の教室をスポーツクラブ主催の教室でと考えております。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	22
事務事業名	各種スポーツ大会等開催事業	担当課名	体育振興課
係 名	体育振興係	施 設 名	新庄第1県民運動場他

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～		
	政策目標	誰もが生涯健康で過ごせるまちづくり		
	施策目標	運動の場の形成を通じた市民の健康の増進		
事業の目的	各種スポーツ大会等を企画し市民の参加を促す。			
事業の内容	市民が積極的に参加できる各種大会の開催や後援などを通してスポーツの振興を図り、健康・体力づくりを支援する。市体育協会及び加盟団体とともにスポーツへの関心を高め、生涯スポーツの振興と体力・健康づくり及び技術の向上を図る。 市民体育祭をはじめとする各種のスポーツ・レクリエーション大会等の行事については、参加及び実践意欲の向上をかんがみて内容等を検討し、さらに多くの市民がスポーツに親しむように努める。			
事業対象	大会参加者（市内在住・在勤者）			
事業年度	☒	区分指定無	☐	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成 28 年度決算	平成 29 年度決算	平成 30 年度予算
		事業費 ①		4,548	4,548	4,548
		内一般財源		4,548	4,548	4,548
		内国・県補助金				
		内受益者負担				
		人件費 ②		5,846	5,111	5,111
		総コスト①+②		10,394	9,659	9,659
実績と 成 果	区 分		単位	平成 28 年度実績	平成 29 年度実績	平成 30 年度(目標)
	事業 実績	大会事業費	千円	4,548	4,548	4,548
	事業 成果	大会参加者数	人	8,420	9,019	9,100

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	全体参加者数は横ばい状態であるが、競技種目によっては、参加者数が減少傾向にある競技も少なくなく、参加の条件やルール等の見直しを行い、より多くの方が気軽に参加できるように、平成30年度より一部種目の変更を行っている。今後更に団体と協議し大会運営を行っていく。			
事業の課題・問題点	市民体育祭について、一部の地区から事業の見直しを検討してほしいと要望があるので、平成30年度は例年通りの開催となるが、今回の結果を踏まえて今後の方向性を検討していく必要がある。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	一部種目で、競技性よりレクリエーション性を重視した種目に変更した。 市民体育祭においては少しずつではあるが競技の変更を行ってきた。今後更に地区重視の大会ではなく、気軽に参加できる体育祭にしていきたい。
-------------------	--

(有識者意見)

有識者意見	参加者数が減少傾向にある競技種目については、市民のニーズをアンケート等で把握し、それをもとに各種団体と協議し、この事業の目的である市民が気軽に参加できるような大会になるよう企画・運営に取り組んでいく必要がある。 市民体育祭をはじめ多くの競技大会を執り行っている事業である。課題・問題点にあるように市民体育祭では大字対抗制度の問題が表面化してきている。一部参加者からは高齢になってもいつまでも競技出場を強いられるとの指摘もある。と同時に、未だに多くの参加を集める看板であるともいえる。幅広い年代の参加を促し、地域の繋がりも促しながら、現代のニーズに応じた大会へと順次変化が求められる。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	各種競技会は、主に体育協会主導で行われており、日本体育協会傘下の奈良県体育協会主催の奈良県民体育大会が現在も行われています。それに向けての予選会の開催、各種目の強化という観点から各種目の競技会は今後も続けていく必要があります。ただ、ご指摘の通り、年々レクリエーション的な要素を含んだ大会に移行できるように体育協会と協議し、近年少しずつであるが、種目の変更や、参加しやすいように規則の緩和などを行っています。今後とも体育競技会というよりは、スポーツレクリエーションという考え方で、市民体育祭を含め検討し、気軽に参加できる事業を増やしていきたいと考えております。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	23
事務事業名	体育施設の管理運営事業	担当課名	体育振興課
係 名	体育振興係	施 設 名	當麻スポーツセンター他

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	誰もが生涯健康で過ごせるまちづくり			
	施策目標	運動の場の形成を通じた市民の健康の増進			
事業の目的	体育施設の安全で効率的な管理および運営				
事業の内容	体育館 4カ所（当麻スポーツセンター体育館、市民体育館、新庄スポーツセンター体育館、いきがい体育館） 運動場 5カ所（当麻健民運動場、新庄第1健民運動場、新庄第2健民運動場、新町球技場、農村広場） テニスコート 3ヶ所（当麻スポーツセンターテニスコート、新町公園テニスコート、屋敷山公園テニスコート） プール 2ヶ所（新庄、当麻両スポーツセンタープール） 上記体育施設の維持管理・運営を職員4名、嘱託1名、アルバイト3名で行っている。 施設の老朽化に伴う修繕については、施設管理の方向性を検討し、公共施設のファシリティマネジメントとの整合性を図りながら、計画的な施設の維持修繕を実施する。				
事業対象	施設利用者（市内在住・在勤者）				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成28年度決算	平成29年度決算	平成30年度予算
		事業費 ①		44,758	43,839	55,035
		内一般財源		42,905	42,135	53,235
		内国・県補助金				
		内受益者負担		1,853	1,704	1,800
		人件費 ②		5,145	6,906	6,906
		総コスト①+②		49,903	50,745	61,941
実績と 成 果	区 分		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度(目標)
	事業 実績	施設管理費	千円	44,758	43,839	55,035
		内修繕、工事費	千円	8,028	13,133	25,987
	事業 成果	施設利用者	人	198,856	187,542	190,000

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☐ 増加	☒ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	C A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	老朽化が激しい各施設の維持管理について、不良箇所が多々あり、内容的に抜本改善が必要な部分が多くある為、必要最小限の維持修繕により対応管理を行っている。したがって、公共施設全般のファシリティマネジメントとの調整、整合性を検討する上で、修繕計画が必要となり、修繕が進まない状況である。 また、施設利用管理については、特段問題なく事務遂行がなされている。			
事業の課題・問題点	それぞれの施設の修繕箇所が多数ある中、来年夏には全国中学校体育大会（サッカー）、更に2021年にはワールドマスターズゲームズ（綱引）が開催予定であるが、それぞれの会場で改善する必要がある。			

評価を受けての改善点 (過去3年間)	修繕計画を作成しながら改善を行って来ているが、財政の厳しい中、今後さらなる計画の改善を行う。
-----------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	毎日数多くの人が活動する体育施設は、安全で快適に利用できなければならない。そのためにも点検が必要であり、日々点検し確認していただいている。また、老朽化が進む中、点検・改修して使用者が安心して活動できる体育施設に取り組んでください。 施設の老朽化が表面化している。施設数が多いので迫りくる大きな大会に向けて施設を取捨選択し重点的に予算を投下しなければいけない。また、多数ある施設のランク分けを行い、上質な施設では応じた施設使用料を徴収する、逆に無償で利用できる施設もある、と幅を持たせた運営など柔軟な考え方もできるのではないかな。
-------	--

(方向性)

事業の方向性	☐ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☒ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	管理する施設が多く、定期的な施設の点検を行っていませんが、警報が出るような雨が降った後には必ず点検を行うようにしています。ただ、ご存じの通り施設の老朽化が進んでいますので、2021年に開催されるワールドマスターズゲームズ（綱引）までに市民体育館の計画的な改修修繕を行う予定です。また今回の北大阪の地震により、ブロック塀の死亡事故が起きましたが、人災による事故が多発する中、今一度各施設の点検を行い、災害に強い施設にできるよう計画していきます。 また使用料徴収などの施設使用有料化におきましても今後検討していきます。	

教育委員会事業評価シート

		事業No.	24
事務事業名	総合型地域スポーツクラブ事業	担当課名	体育振興課
係 名	体育振興係	施 設 名	當麻スポーツセンター他

(計画)

総合計画上の 位置付け	政策の柱	壮健・学習～心と身体が健やかに育まれるまち～			
	政策目標	誰もが生涯健康で過ごせるまちづくり			
	施策目標	運動の場の形成を通じた市民の健康の増進			
事業の目的	総合型地域スポーツクラブを設立し、市民のスポーツ意識の高揚、健康増進や体力向上及び子供から高齢者までの人々が集い、スポーツや文化を楽しむコミュニティの実施を図る。				
事業の内容	平成２８年度末に総合型地域スポーツクラブ「スポーツクラブ葛城」が設立され、２９年度からは、市のスポーツ教室と両事業での重複等のあったジュニアバドミントン教室、トランポピクス教室、健康トレーニング教室を移行して、クラブの充実を図る。 さらに、公共施設を有効利用して、市民(地域)の方が、気軽に参加でき、人と人のふれあいや仲間づくり、また、市民(地域)のために運営・活動をおこなうもので、健康増進に加えて、子どもたちの健全育成のために、現代社会の諸問題(子供の遊び場の減少やいじめ不登校をはじめとする教育問題、さらには、核家族化による世代間交流の欠如などの問題)に、応えられるスポーツクラブの運営を目指す。				
事業対象	施設利用者（市内在住・在勤者）				
事業年度	■	区分指定無		□	平成 ～ 平成 間

(実施内容)

事業コスト (単位：千円)		区 分		平成28年度決算	平成29年度決算	平成30年度予算
		事業費 ①		1,570	2,700	2,709
		内一般財源		225	270	270
		内国・県補助金		826	2,430	2,439
		内受益者負担		519		
		人件費 ②		970	1,196	1,196
		総コスト①+②		2,540	3,896	3,905
実績と成果	区 分		単位	平成28年度実績	平成29年度実績	平成30年度(目標)
	事業実績	諸謝金	千円	796	1,157	1,160
		事業費	千円	774	1,543	1,549
	事業成果	体験教室参加者	人	162	12	50
		設立準備会	回	8		
		教室参加者	人		171	200
		運営委員会	回		7	7

(評価)

事業の評価	妥当性(市民のニーズに変化があるか。事業を行う必要性があるか)			
	☒ 増加	☐ 横ばい	☐ 減少	☐ かなり減少
	有効性(施策目標の実現に貢献しているか)			
	☐ 十分貢献している	☒ 概ね貢献している	☐ あまり貢献していない	☐ 貢献していない
	経済・効率性(事務効率化、コスト縮減しているか。)			
	☐ 十分できている	☐ できている	☒ あまりできていない	☐ できていない
事業の評価	目標達成度(計画通りに目標を達成できたか)			
	☐ 十分できている	☒ できている	☐ あまりできていない	☐ できていない
総合評価	B A 優れた取組が多く、十分成果が上がっている B 優れた取組がいくつかあり、成果が上がっている C 成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い D 成果がほとんど上がっておらず、抜本的な見直しが必要			
評価の説明	平成29年度より本格的にスタートした事業であり、当初は参加者を集められるか不安のある中スタートしたが、171名の教室生を集めることができた。			
事業の課題・問題点	国の補助を受けての事業ではあるが、現在と同一の補助を受けられるのは2021年までであり、今後教室や事業を増やしていく必要がある。			

評価を受けての改善点(過去3年間)	現在、市主催の教室や、体育協会、スポーツ少年団との棲み分けがあまりできていない状態ではあるが、各教室の目的の区分を明確化し、教室生を確保していく。
-------------------	---

(有識者意見)

有識者意見	平成28年度より地域の方が地域のために運営・活動をおこなう「総合型スポーツクラブ葛城」を設立できたことは評価できる。しかし、この事業は国の補助事業であり平成33年以降は補助金がなくなり、受益者負担だけで実施していかなければならない。そのためにも、市民のニーズを的確に把握し、事業の目的達成に向け取り組み、一定の成果を上げる必要がある。 各種教室事業との住み分けが争点となってくる事業である。市の資産を有効活用し、受益者が適切な費用を負担しスポーツを楽しむ形を目指している。数年かけて移行をする中で、市民の理解を得ながら質と量を充実させていかなければならない。また、本事業だけでなく文化事業・スポーツ事業等市民サービスが複雑化している。語弊の無いように、わかりやすい案内にも努めることが市民参加を促す上で重要である。
-------	---

(方向性)

事業の方向性	☒ さらに重点化する	☐ 事業の縮小を検討する
	☐ 現状のまま継続する	☐ 休止、廃止を検討する
	☐ 見直しのうえ継続する	☐ 終了・完了
施策等への反映方針 (上記を踏まえての担当課意見・数値目標等)	将来的には、教育委員会主催のスポーツ教室をスポーツクラブに完全移行できればと考えていますが、スポーツクラブはまだ始まったばかりで、完全に軌道にのっているとは言えない状態にあります。これからスポーツ教室をはじめ色々な事業に挑戦しながら、3年後を目途に独立採算制団体を目指し、住民のニーズに応えられるように運営委員会と協議し今後に臨みます。	

7. 点検及び評価のまとめ

教育に関する事務の点検及び評価報告書（各事業評価シート）について、教育委員会より以下の意見を受けました。

（1）各事業に対する意見について

事業 No. 1 市内小学校空調設備設置工事

小・中学校における空調機器の設置については、県下においてもいち早く整備されたことにより、今期の酷暑にも著しく対応できたことは、子供たちの学習面や健康面において、大いに評価できるものと思われる。

異常気象による高温、多湿等を回避することは、児童にとって夏場の熱中症対策に効果があり、空調完備はありがたい。よって、残された 2 幼稚園についても早急な工事を望みます。又、設置されている学校等については、十分な温度管理をして、適切な使用をしていただきたい。

事業 No. 2 小・中・幼各所改修工事

安全で安心できる学校施設の環境づくりには十分配慮されている。学校側も子どもの命を第一に考え、常に修繕箇所の把握に努めてほしい。

施設の老朽化が進む中、教育施設の環境整備については、子供たちの安全を確保し、施設の整備を進めることが学習面においても影響があるものと思われる。又、大地震に備えるためにも、改修箇所の点検を実施していただきたい。

工作物（ブロック塀）に限らず、耐震補強、部分改修工事を施工する時には、建築基準法に抵触しないか、再確認し計画を進めて頂きたい。

事業 No. 3 小学生スポーツ教室委託事業

子どもたちの立場から、先に講師のスポーツ経験、夢へ向かっての苦労や工夫をしてきたかの体験談を聞いてから、プログラムへ移行する方が、子どもたちの心をより掴むと思います。

学習指導の一環として、取り組んでおられる「夢先生」については、トップアスリートから、直接体験話を聞き、実際に関わることにより、子供たちの将来への考え方や、大きな夢や希望に繋いでいけるものと思われます。

各スポーツのアスリートの体験談は、心技等を向上させる上で、貴重であると思います。従って、アスリートの招へいには難しい事もあると思いますが、引き続き努力していただきたい。

事業 No. 4 学校給食事業

若い栄養士 2 名で頑張ってください。より一層、葛城市の食育やメニューのバリエーションを広げる為に、市のふたば会の方やセンターで働いている方々の生の声を聞いて、工夫をしていってほしいです。また、学校へ出向き、子どもたちの食べている様子等を見に行ってください。

現在、安定した給食の供給に努められているところですが、特に食物アレルギーへの対応の取り組みについては大いに評価できるものと思われます。今後も、子どもたちの食育の取り組みとして、地元産の食材を使用し、郷土食等を生かしたメニューを取り入れるなど、美味しいと感じられる給食づくりに努めていただきたい。

委託業者を変更して日は浅いが、異物混入等の問題事象も聞こえてこないのが良かったと安心しています。今後、引き続き安全供給を行っていただき、併せて、アレルギー対策にも配慮して頂きたい。

事業 No. 5 葛城歌壇短歌大会

広報誌でのアピール次第で市民からの応募数が増えると思います。また、生涯学習まちづくり推進大会に入賞者の作品発表を行ってみることも検討して下さい。

短歌の出詠数の見直しを効率よく行われたことは、事業面において、大いに評価できるものと思われる。

小、中学生が出詠した短歌を市民の方々に関心を深めていただき、広く周知できる「場づくり」の検討を望みます。

小学生の出品が増加しているのは、良い傾向であり、改変も含めより一層の取り組みを続けて頂きたい。

事業 No. 6 読書活動支援・講座

葛城市にゆかりのある人物をテーマとした「大伯皇女と大津皇子」の文学講座の催しについては、とても興味深い企画であったと思われます。今後も、地元の文化と歴史を知るための手段としての、企画立案を期待します。

図書館の利用者の増加に伴い、月末におこなわれている図書整理のための休館日を 2 館とも同日とせず、各図書館が有効活用できるよう日程の変更の見直しが必要と考えられる。

事業 No. 7 ブックスタート事業

子育て支援事業の一助ともいえるブックスタート事業については、今後もボランティアの協力が不可欠であると考えられるところですが、「おはなし会」などでは、一般のボランティアの方以外に、学生の方にも協力していただけるような体制づくりを可能にできないでしょうか。

子育てをする親にとって、この事業は、保護者間のコミュニケーションが図れ、絵本を

通じて育児の楽しさや相談も出来る場であると思うので、今後も継続して頂きたい。

事業 No. 8 成人式式典事業

成人式は市の大会イベントであり、毎年、楽しい企画になっていると思います。新成人スタッフが活動しやすいように行政側もアイデアを出し合い、共に企画し活動して楽しかったと思えるようにサポートをお願いします。

新成人のスタッフが中心となり、企画・運営することにより、毎年、個性のある成人式が実施されていると思います。これからも思い出に残る成人式となるよう行政や経験者の意見も取り入れながら、工夫・検討を重ねていただきたいと思います。

事業 No. 9 生涯学習人材バンク事業

懸案であるこの事業、直ちに見直しを図られたい。一方、市民の生涯学習活動推進及び生涯学習街づくりの進展に寄与することを目的に生涯学習まちづくり移動講座が開設されている。その活動と一体化することはできないのか。

この事業で学校教育の部活動のお手伝い等ができれば地域ぐるみで子どもたちの育成を図ることができます。その為に今後も学校へ人材バンクの周知と人材紹介を行って下さい。

事業の展開が見えてこないように思われる。今後、活動内容を十分に把握し、見直しの必要性があると考えられる。

利用者、ボランティア登録者も減少傾向であるようですが、粘り強く広報活動等を通じ、市民ボランティアを募集するとともに派遣分野の開拓に努力願いたい。

事業 No. 10 青少年健全育成事業

こども・若者サポートセンターとの連携を図り、この協議会との会議でしっかり葛城市の子どもたちの現状を把握し情報共有することが活動につながる一歩だと思います。

こども・若者サポートセンターとの連携を図り、各種団体との協力を得ながら、地域ぐるみでの取り組みが必要と考えられる。

こども・若者サポートセンターに期待します。

事業 No. 11 学校・地域パートナーシップ事業

学校運営上この事業が大いに助けられていることをよく耳にする。大変喜ばしいことである。コーディネーターの前向きな姿勢と人柄に感謝するところである。

今後も良き後継者の育成に力を入れてほしい。

地域ぐるみで子どもたちを育成するにおいて、この事業は高く評価します。小学校と中学校の活動内容の差があるかと思われますが、中学校での支援ボランティアの人数が増えればと願います。

地域パートナーシップ事業については、各分野において多大なる協力をいただいている

ところですが、この事業の取り組みを進めていく中で、子どもたちが人と人のつながりを心から大切に育てていくための重要な支援活動でもあると評価します。

事業 No. 12 生涯学習まちづくり推進大会

この大会は、毎回、市歌を舞台大画面で参加者と歌うことは意義のあることと感じています。34 年度で分館発表が全て終わりますが、地域の人間関係の希薄化を考えると、この企画は、今後も続けることが重要であると考えます。

各地域における伝統行事や文化活動が紹介されることにより、地域ごとの分館活動の取り組みが理解でき、今後の町づくりの活性化につなげられるものと思われる。

モデル分館の発表は、葛城市にあって各大字の特色、地域環境、地域活動を知るうえで継続して頂きたい事業である。ので、後 4 年で発表が一巡するようであるが、早いうちから、今までのように各大字の状況が分かるような発表会を検討して頂きたい。

事業 No. 13 葛城アートフェア事業

葛城市を美術館化するという試みは夢があり市民も期待するところです。継続することには大変ですが、広報誌等での PR やアイデア募集を行うことや、市内幼・小・中学生の児童・生徒にも展示品を見学し、作品に触れる機会を設けることも検討して下さい。

市内の応募の減少が気になる。出品作品のハードルを下げる等、気軽に応募できる体制づくりを検討してはどうか？（趣味程度で作っている陶器等）

事業 No. 14 公園まつり実行委員会業務

公園まつりは、毎年多くの方が来場され、一日楽しく過ごされていますが、今後もイベント等の内容がマンネリ化とならないよう少しずつ変化に富んだ工夫をしながら歴史ある伝統行事として存続できる事業の運営を期待します。

事業 No. 17 文化振興事業

会館事業が少ないように思われる。コンサートなどの自主事業以外に有料型の映画鑑賞や演劇などを取り入れ、館が休みなく運営できるような取り組みの必要があると考えられる。

事業 No. 18 展示（常設展・特別展等）事業

葛城市の歴史を知っていただくための手段として、新聞報道されたこともあり、情報の周知ができ、来館者の増加につながられたと考えられます。今後も、なお一層の広報活動に努めていただきたいと思います。

事業 No. 19 歴史講座開催事業

葛城市の歴史と文化に興味を持ち、理解を深めていただくための工夫・検討を重ねられた取り組みに対し、大いに評価できる。

事業 No. 20 埋蔵文化財等調査事業

毎年担当課及び有識者も述べられているように、技術職員・専門職員等の人員の増加を要望されているが実現されないのは何故か。

専門職員の増員を早急に行い、後継者の育成にも引き続き努力願いたい。

事業 No. 22 各種スポーツ大会等開催事業

市民体育祭については、方向性を見直しを検討されているとのことですが、市民に負担のかからない、自由に楽しめる参加型の体育大会としての企画・運営に取り組んでいただきたいと思います。

すべて、オープン競技にしてはどうか

事業 No. 24 総合型地域スポーツクラブ事業

今後この事業を遂行していく上で、市、体育協会、スポーツ少年団運営協議会、教育委員会の意見を取り入れ、気軽に誰でも参加できるスポーツクラブの運営をお願いします。また、スポーツのイベント企画をし、市民にこの事業の周知をしてもいいかと思います。

(2) 総評

主要な24事業について、事務局・各機関は「A評価…7、B評価…15、C評価…2」と自己点検しています。その中でも、C評価「成果が十分に上がっておらず、改善の余地が多い」と判断される事業もあります。改めて、それぞれの取り組み状況を振り返りたいと思います。

今後も、事業の対象となる市民の皆様の満足度を第一に考え、ファシリティーマネジメントに基づいて、PDCAサイクルで事業遂行をしまいたいと考えます。

この事業評価に関わっていただきました有識者の方々には、高い見識と豊かな経験のもとに貴重なご意見をいただきました。本当にありがとうございました。

いただきましたご意見を真摯に受け止め、未来に生きる子どもたちが健やかにたくましく成長できるよう、また、市民の皆様が日々の生活の中に安らぎや喜び、潤いを感じていただけるよう、関係者皆様のご理解とご支援・ご協力を得ながら事業の推進に向けて努力してまいります。

平成30年9月1日

葛 城 市 教 育 委 員 会